新総合計画の策定に向けた
アンケートの結果について

概要

第１章　調査概要

1　調査の目的

- 本調査は、令和 8 年度を初年度とする新総合計画の策定に当たり、市民（18 歳以上）及び若い世代（高校生、大学生）が日頃感じていること、暮らしの満足度（幸福度）、米沢市の取組に対する意見や要望を把握することを目的に実施しました。

2　調査の実施概要

項目	A 市民調査	B 高校生･大学生調査
調査対象	18 歳以上の市民（市内在住）3,000 人（年齢、性別を考慮して無作為抽出）	市内高校に在学する高校 3 年生　936 人 市内大学に在学する最終学年の学生（短期大学 2 年生、大学 4 年生、大学院修士 2 年生）1,412 人
調査方法	配付方法：自宅への調査票郵送 回答方法：Web 回答、郵送提出（いずれか 1 つを選択）	配付方法：学校を通じて調査票配付 回答方法：Web 回答、回収 BOX（大学生のみ）（いずれか 1 つを選択）
調査時期	令和 6 年 7 月～8 月	令和 6 年 7 月
回答数	1,445 人（回答率 48.2%）	高校生　408 人（回答率 43.6%） 大学生　351 人（回答率 24.9%）

調査項目	市民	高校生･大学生
あなたご自身のことについて	○	○
米沢市の取組について	○	
進路・働き方について		○
暮らしの満足度（幸福度）・地域での暮らしについて	○	○
米沢市の将来像について	○	○

第２章　調査結果

①米沢市の取組について重要度・満足度【市民調査】

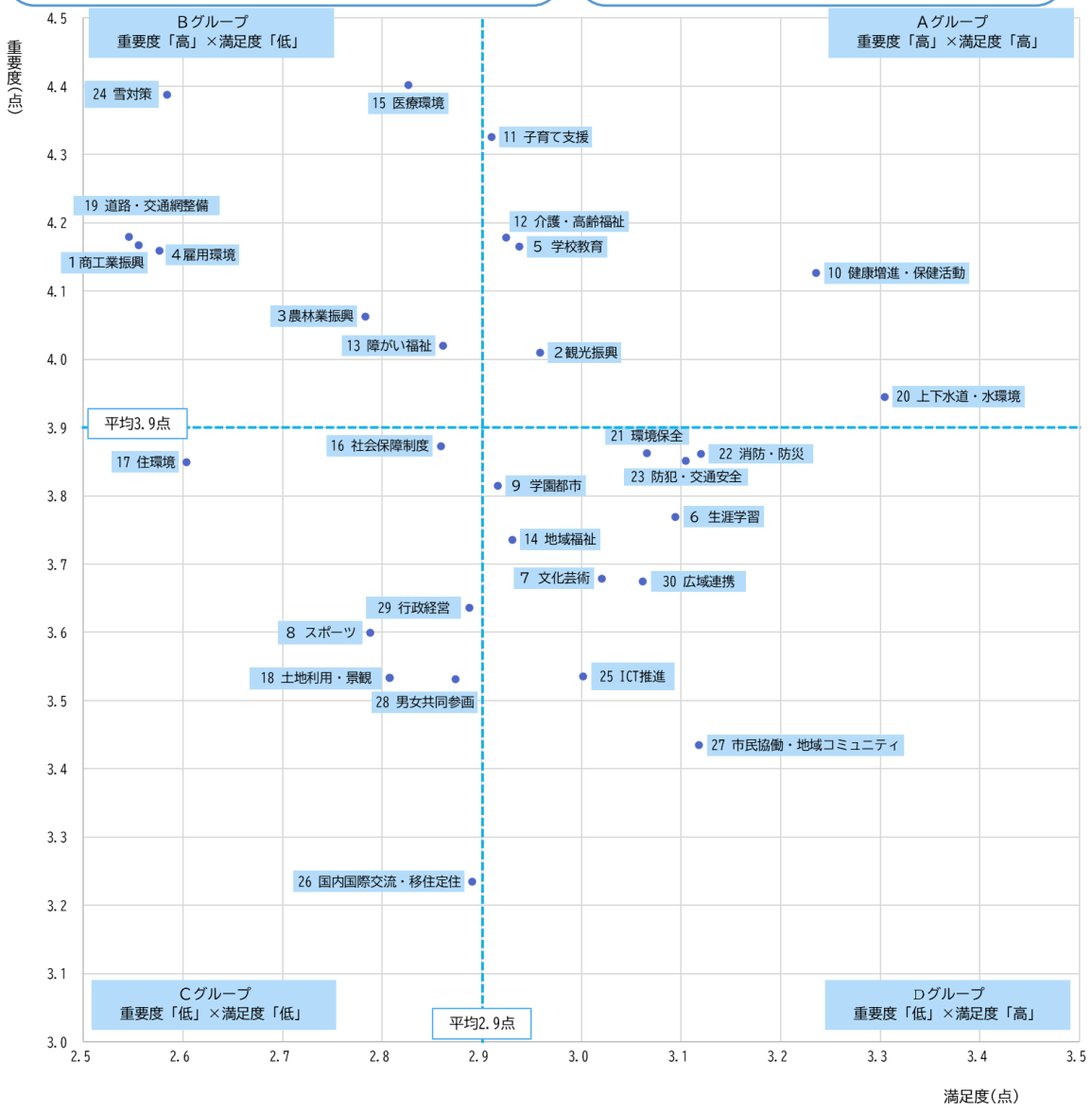
▼考察(結果のポイント)

- 施策分野毎の重要度と満足度（各５点満点）の平均点を散布図で表すと次のようになります。
- Ｂグループは重要度が高く、かつ、満足度が低い、市民ニーズが高いと考えられる施策群です。
- その中でも特に満足度が低い、雪対策、道路・交通網整備、商工業振興、雇用環境などの項目に関わる取組に力を入れ、市民が実感できる成果を上げていくことが求められます。

市民ニーズが特に高い施策群

Ｂグループ　重要度「高」×満足度「低」
15 医療環境　24 雪対策　19 道路・交通網整備
1 商工業振興　4 雇用環境　3 農林業振興
13 障がい福祉

Ａグループ　重要度「高」×満足度「高」
11 子育て支援　12 介護・高齢福祉
5 学校教育　10 健康増進・保健活動
2 観光振興　20 上下水道・水環境



【令和元年調査との比較】

- a は上位 5 位、b は下位 5 位、c 及び d は上位 5 位、e は下位 5 位を網掛けしています。
- 複数の網掛けがある施策項目（黄色網掛け）は、要注視項目として特に施策の検討が必要です。

施策項目	令和6年(n=1445)			令和元年(n=1210)		R6-R1	
	重要度a	満足度b	c=a-b	重要度	満足度	重要度d	満足度e
1 商工業振興	4.17	2.56	1.61	4.12	2.80	0.05	△0.24
2 観光振興	4.01	2.96	1.05	3.92	3.01	0.09	△0.05
3 農林業振興	4.06	2.78	1.28	3.96	2.85	0.10	△0.07
4 雇用環境	4.16	2.58	1.58	4.28	2.67	△0.12	△0.09
5 学校教育	4.16	2.94	1.23	4.22	3.04	△0.06	△0.10
6 生涯学習	3.77	3.09	0.67	3.72	3.16	0.05	△0.07
7 文化芸術	3.68	3.02	0.66	3.80	3.05	△0.12	△0.03
8 スポーツ	3.60	2.79	0.81	3.64	2.88	△0.04	△0.09
9 学園都市	3.81	2.92	0.90	3.91	3.03	△0.10	△0.11
10 健康増進・保健活動	4.13	3.24	0.89	4.18	3.04	△0.05	0.20
11 子育て支援	4.33	2.91	1.42	4.32	2.95	0.01	△0.04
12 介護・高齢福祉	4.18	2.92	1.25	4.24	2.96	△0.06	△0.04
13 障がい福祉	4.02	2.86	1.16	4.10	2.91	△0.08	△0.05
14 地域福祉	3.74	2.93	0.81	3.78	2.94	△0.04	△0.01
15 医療環境	4.40	2.83	1.58	4.45	3.07	△0.05	△0.24
16 社会保障制度	3.87	2.86	1.01	4.14	2.90	△0.27	△0.04
17 住環境	3.85	2.60	1.25	3.86	2.83	△0.01	△0.23
18 土地利用・景観	3.53	2.81	0.72	3.89	2.75	△0.36	0.06
19 道路・交通網整備	4.18	2.55	1.63	4.19	2.92	△0.01	△0.37
20 上下水道・水環境	3.95	3.30	0.64	4.22	3.43	△0.27	△0.13
21 環境保全	3.86	3.07	0.80	4.09	3.15	△0.23	△0.08
22 消防・防災	3.86	3.12	0.74	4.18	3.05	△0.32	0.07
23 防犯・交通安全	3.85	3.10	0.75	4.16	2.92	△0.31	0.18
24 雪対策	4.39	2.58	1.80	4.44	2.83	△0.05	△0.25
25 ICT推進	3.54	3.00	0.53	3.84	2.96	△0.30	0.04
26 国内国際交流・移住定住	3.24	2.89	0.34	3.59	2.91	△0.35	△0.02
27 市民協働・地域コミュニティ	3.43	3.12	0.32	3.66	2.84	△0.23	0.28
28 男女共同参画	3.53	2.87	0.66	3.83	2.86	△0.30	0.01
29 行政経営	3.64	2.89	0.75	3.87	2.84	△0.23	0.05
30 広域連携	3.67	3.06	0.61	3.94	3.12	△0.27	△0.06
平均	3.89	2.90		4.02	2.96	△0.13	△0.05

②米沢市の取組への提案（自由記述）【市民調査】

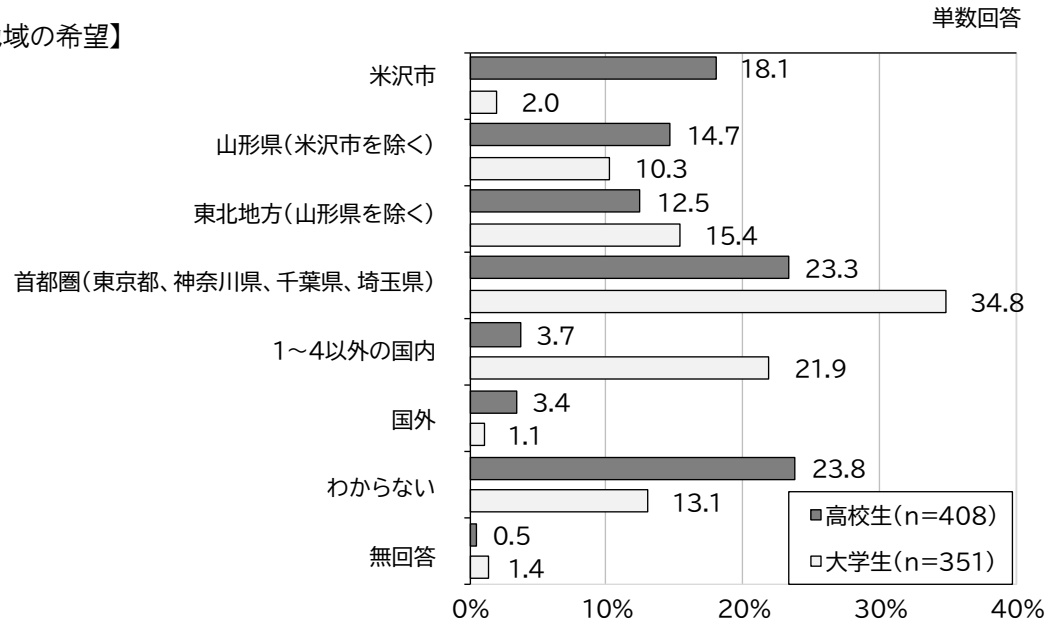
分類	意見（抜粋・要約）
除雪対策の充実	● 雪対策での助成金制度 ● 除雪されているところとされていないところの差が激しい ● 流雪溝や道路消雪装置の増設　等
子育て支援の充実	● 子育て支援等の給付金の増額 ● 子育て世帯への支援が弱い ● こどもの貧困対策や障害福祉のサポート　等
教育の充実	● 学童の無償化 ● 中高一貫校の設置 ● 学園都市推進に力を入れる　等
高齢者支援、医療・福祉の充実	● 不妊治療の助成金 ● 介護従事者の給料アップ ● 市立病院の医師不足解消と専門医の充足 ● 手話言語条例の制定　等
公共交通対策、道路整備の推進	● 市内の循環バスの本数を増やす ● バスのルートを増やす ● 免許返納後の交通手段の確保　等
住みやすさ、交流の充実	● こどもが遊べる遊具のある公園の増設 ● 若者が遊べる施設の充実 ● 室内遊技場の設置 ● 高齢者が交流できる活動の機会 ● 図書館や文化センターの有効活用 ● 音楽活動の発表の場の提供　等
魅力アップ・PR の取組	● 上杉神社・博物館・上杉家廟所・林泉寺をつなぐガイドバスの運行 ● 市報の電子配布 ● 若者が大都市圏へ出ていき戻ってこないことを真剣に考える　等
産業の活性化、就労対策	● 新規就農者の育成と若い人材の働き口の確保 ● ゲームや漫画の聖地巡礼を観光事業に活用 ● 非正規雇用労働者への給付金　等

③働き方の意向【高校生・大学生調査】

▼考察(結果のポイント)

- 働く地域の希望として、高校生、大学生ともに首都圏を中心に働きたい意向が強いことがわかりました。
- 希望する職種は高校生、大学生ともに「工業・製造業関係」が１位ですが、高校生では上位はほぼ横並びです。また、大学生は山形大学工学部の学生が多いことが影響していると考えられます。
- 働く場合に重視することは、高校生、大学生ともに、「業種・職種」、「福利厚生や仕事以外の要素」などの割合が高まっていますが、依然、「給与水準」が１位であることがわかりました。
- この結果を踏まえた上で、学校・企業などと協力し、選ばれる、戻ってこられる就労環境の構築が求められます。

【働く地域の希望】



【希望する仕事】回答の多い順　　単位（%）

順位	選択肢	高校生（n=408）	選択肢	大学生（n=351）
1	工業・製造業関係	16.7	工業・製造業関係	53.8
2	医療関係	15.4	情報・通信・IT 関係	26.2
3	公務員	13.5	学術関係	12.0

【働く場合に重視すること（令和元年調査との比較）】回答の多い順　　単位（%）

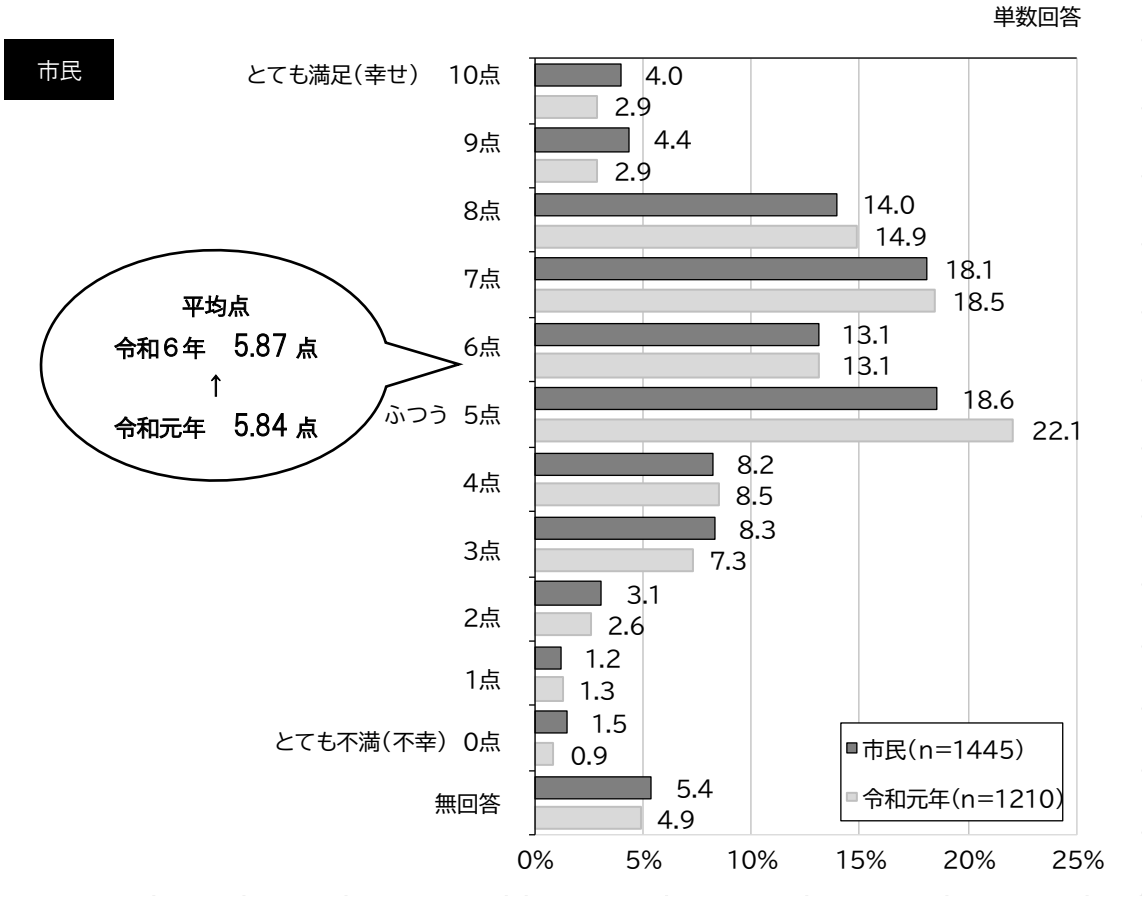
順位	高校生（%）		大学生（%）	
	令和６年（n=408）	令和元年（n=951）	令和６年（n=351）	令和元年（n=421）
1	給与水準が高い 61.3	給与水準が高い 67.8	給与水準が高い 63.2	給与水準が高い 74.1
2	希望する業種・職種がある 48.0	仕事の内容・やりがい 46.9	福利厚生などが充実している 61.3	休みの日数 46.3
3	仕事以外の時間を十分確保できる 41.7	休みの日数 41.4	希望する業種・職種がある 47.3	仕事の内容・やりがい 44.7
4	福利厚生などが充実している 39.7	職場の人間関係 29.5	仕事以外の時間を十分確保できる 41.3	福利・厚生 42.3
5	自分のキャリア・スキルが活かせる 37.5	労働時間 24.5	大企業や有名企業である 25.1	職場の人間関係 35.9

※選択肢が異なるため、単純な比較ができない点に留意すること。

④暮らしの満足度（幸福度）【市民・高校生・大学生調査】

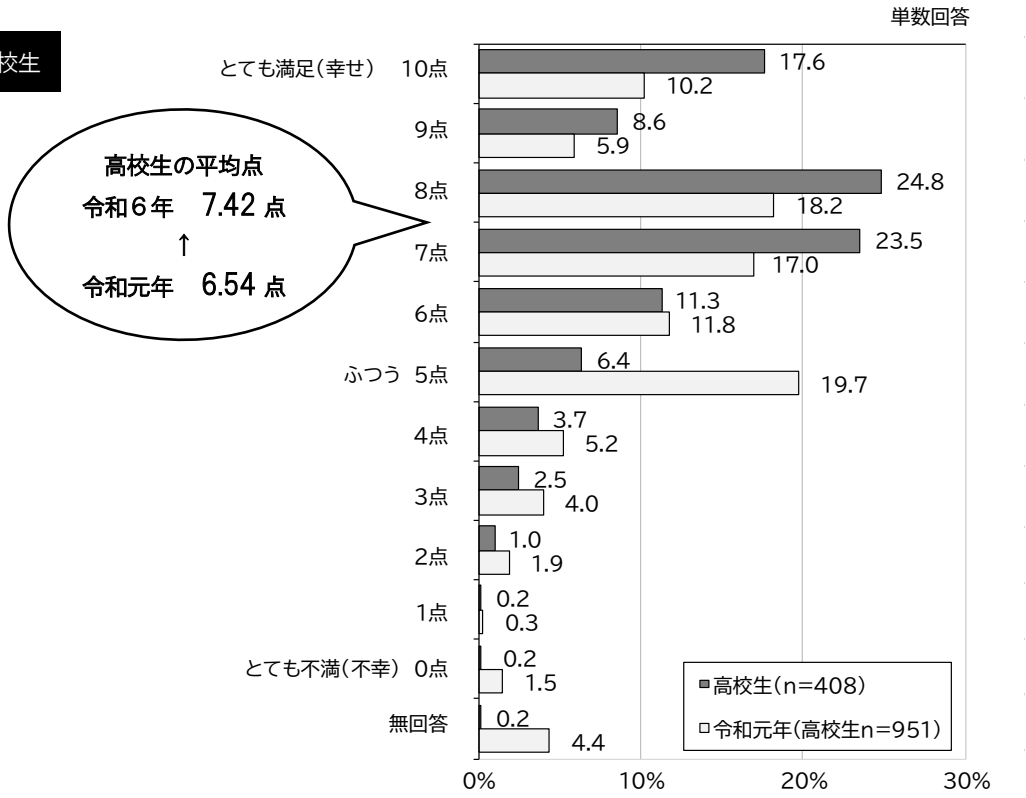
▼考察(結果のポイント)

- 市民の暮らしの満足度（幸福度）の平均点（※）は 5.87 点です。令和元年調査の平均点（5.84 点）から 0.03 点上昇しました。
- 高校生の平均点（※）は、令和元年調査の 6.54 点から 0.88 点上昇しました。
- 大学生の平均点（※）は、令和元年調査の 5.58 点から 1.11 点上昇しました。
- 暮らしの満足度（幸福度）は、ほぼ横ばいであることがわかりました。

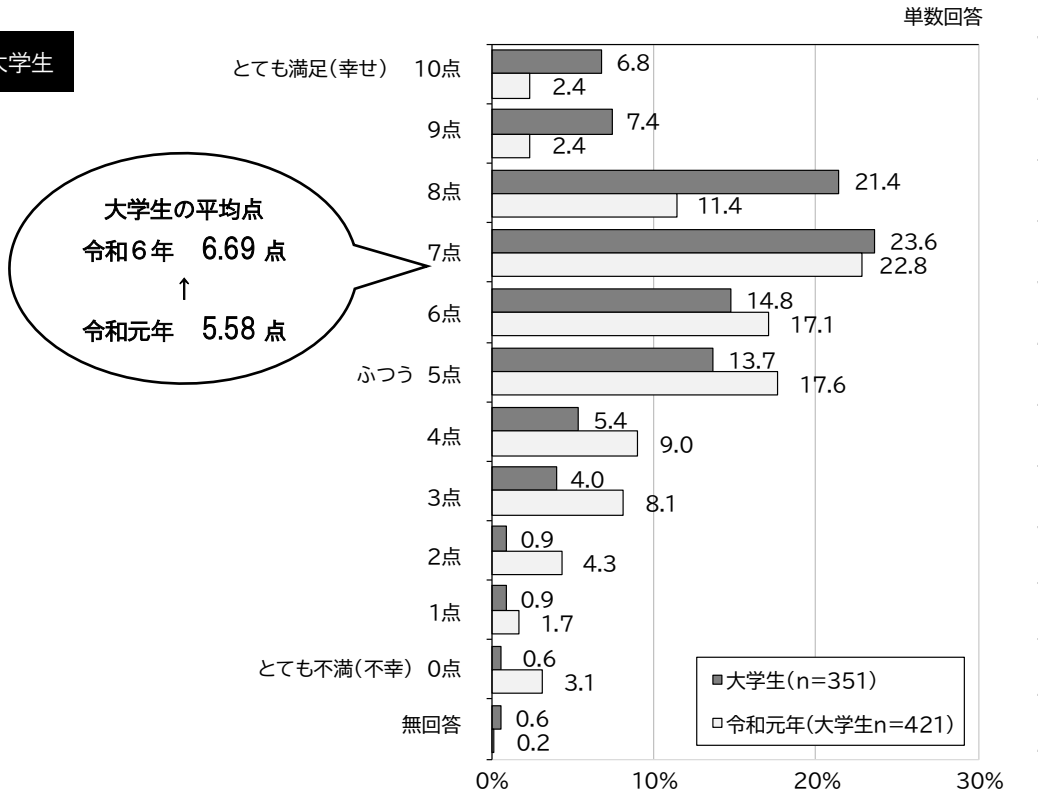


※平均点は、0 点～10 点×各人数の合計点を点数回答者（0 点～10 点の総人数）で除した値。

高校生



大学生



※平均点は、0 点～10 点×各人数の合計点を点数回答者（0 点～10 点の総人数）で除した値。

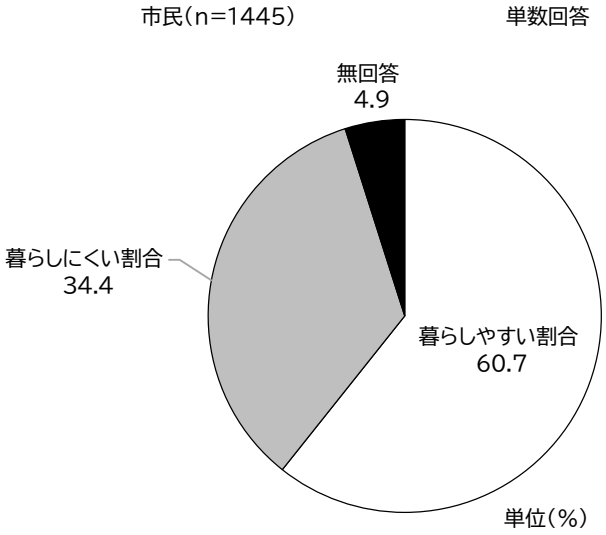
⑤暮らしやすさの評価【市民・高校生・大学生調査】

▼考察(結果のポイント)

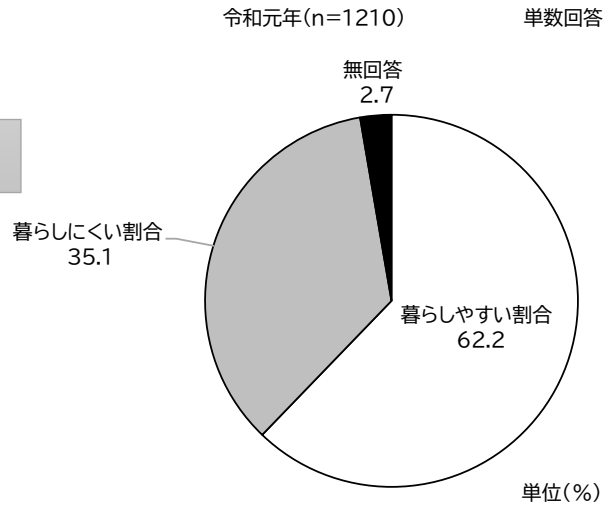
- 市民の暮らしやすい割合（「暮らしやすい」＋「どちらかといえば暮らしやすい」の合計）は、60.7%、暮らしにくい割合（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」の合計）は、34.4%となっています。暮らしやすい割合が令和元年調査から 1.5 ポイント低下しました。
- 高校生の暮らしやすさを感じる割合が令和元年調査から 4.6 ポイント上昇しました。
- 大学生の暮らしやすさを感じる割合が令和元年調査から 9.9 ポイント上昇しました。
- ±5 ポイント程度を誤差の範囲と考えても、大学生の暮らしやすさが高まったと捉えることができます。
- 自由記述をみると、暮らしやすい理由は「自然」「安全」「買い物に困らない」などが共通しています。一方、暮らしにくい理由は「雪」「公共交通、移動手段」「物価が高い」などが共通しています。

市民

▼令和６年調査

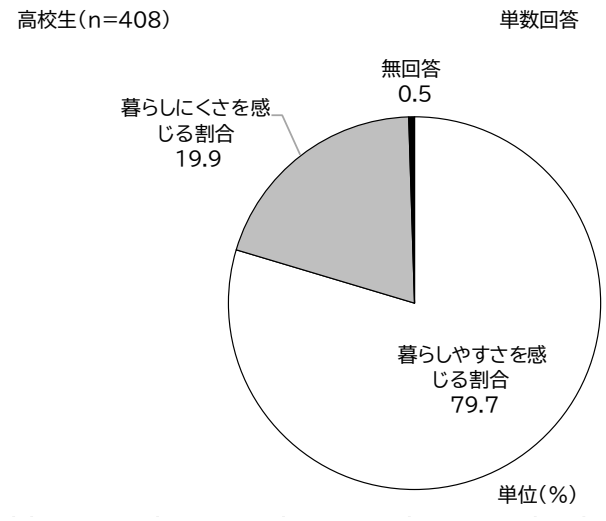


▼令和元年調査

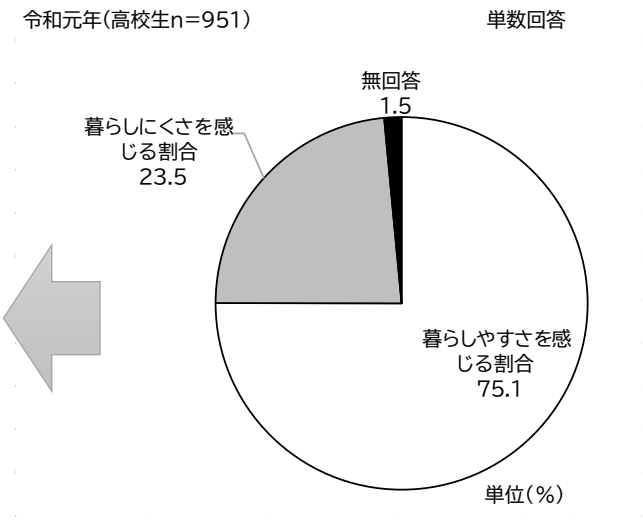


高校生

▼令和６年調査

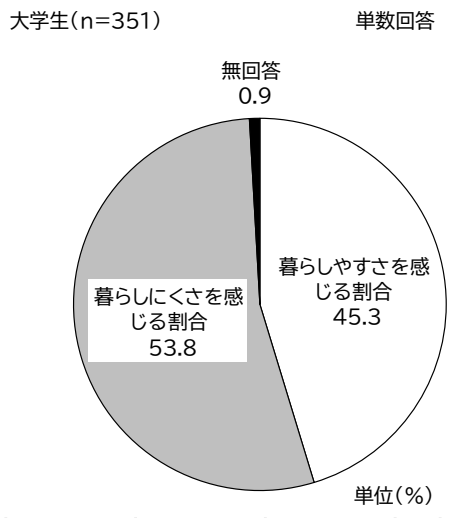


▼令和元年調査

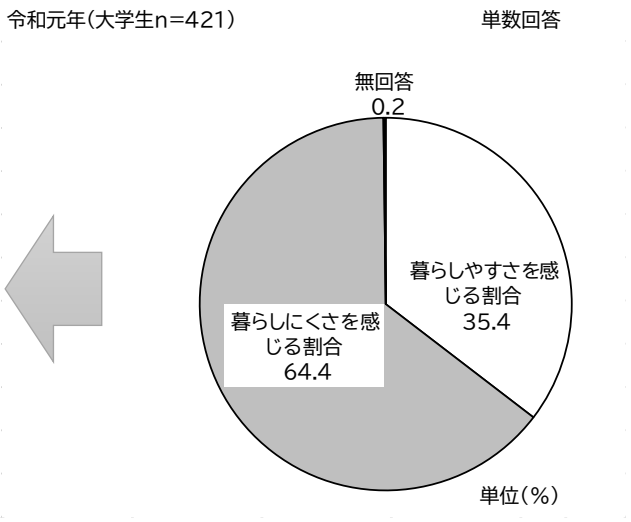


※両調査とも市外居住者を含む割合。

大学生　▼令和６年調査



▼令和元年調査



※両調査とも市外居住者を含む割合。

【自由記述】

分類	市民	高校生	大学生
暮らしやすい理由	● 自然が豊か ● 災害が少ない ● 買い物が便利、スーパーやお店が多い ● 車が運転できれば、雪以外は生活しやすい　等	● 学校も医療施設も充実している ● バリアフリーや福祉施設が整備されている ● 買い物がしやすい ● カフェやショッピングセンターがある ● 自然豊か ● 治安がいい ● 災害が少ない　等	● スーパーや病院が近くにあり、日常生活に必要なものは揃っている ● 自転車があれば、生活に困らない ● 自然が豊かで、静かで落ち着いた環境 ● 犯罪が少なく、平和な環境　等
暮らしにくい理由	● 除雪が大変 ● 雪で運転しづらい ● 車が運転できないと生活がしづらい ● 移動手段が不便 ● こどもが遊べる、若者が楽しめる場所が少ない ● 物価が高い　等	● 公共交通機関の本数が少ない ● 車がないと移動が難しい ● 道路や歩道の整備が不十分 ● 買い物や遊び場が少ない ● ドラッグストアばかりが増えている ● 除雪が不十分 ● 雪による交通の影響 ● 公共施設やレジャー施設が少ない　等	● 公共交通機関（バスや電車）の本数が少ない ● 車がないと不便に感じることが多い ● 水道代やガソリン代が高い ● 物価が高く、賃金が低い ● 大学周辺に飲食店や娯楽施設が少ない ● 商業施設が遠く、閉店時間が早い ● 街灯が少なく夜間の安全に不安がある ● 除雪が不十分な場所があり、歩行が困難　等

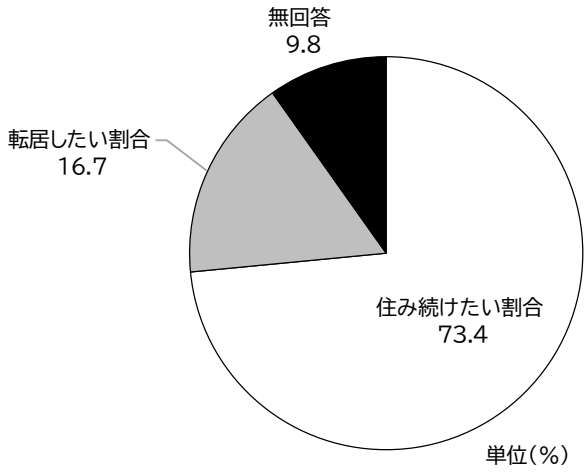
⑥米沢市への居住希望【市民・高校生・大学生（市内居住者）調査】

▼考察(結果のポイント)

- 住み続けたい割合（「ずっと住むつもりである」＋「当分転居するつもりはない」の合計）を令和元年調査と比較すると、市民（73.4%）は 7.7 ポイント低下、高校生（34.4%）は 1.6 ポイント低下している一方で、大学生（5.9%）は 1.3 ポイント上昇しました。
- 大学生の住み続けたい理由をみると、「地域での人間関係がよい」が挙げられており、これは、学園都市としての取組の成果と考えられます。
- 転居したい理由をみると、「買い物や生活に不便」「公共交通、移動手段」「仕事・学校・家庭の事情」がほぼ共通しています。

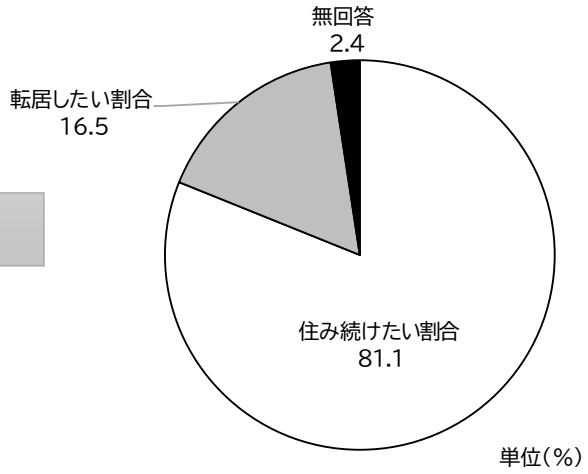
市民　▼令和６年調査

市民(n=1445)　単数回答



▼令和元年調査

令和元年(n=1210)　単数回答

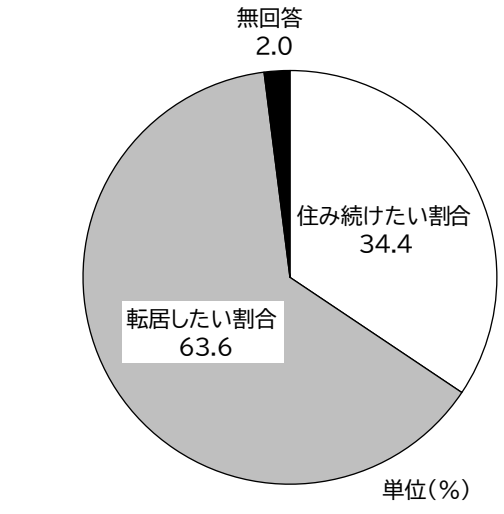


【住み続けたい理由（左）、転居したい理由（右）】回答の多い順　単位（%）

順位	住み続けたい理由	居住希望者（n=1061）	転居したい理由	転居希望者（n=242）
1	自然環境にめぐまれている	39.4	買い物や生活に不便	36.8
2	両親や親戚が市内に住んでいる	37.4	交通の便が悪い、通勤・通学に不便	35.5
3	特に転居したいところがない	34.5	仕事・学校・家庭の事情	24.4

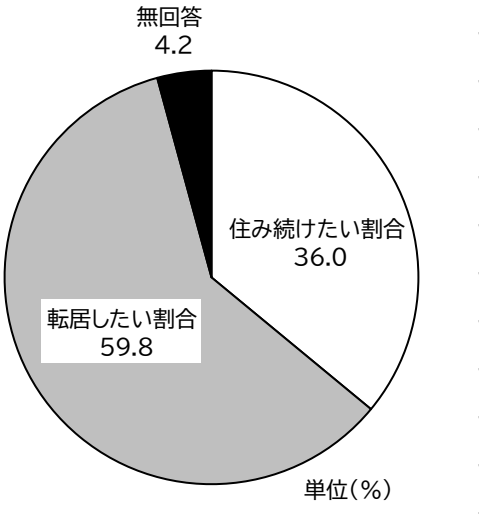
高校生　▼令和６年調査

高校生（n=247）　単数回答



▼令和元年調査

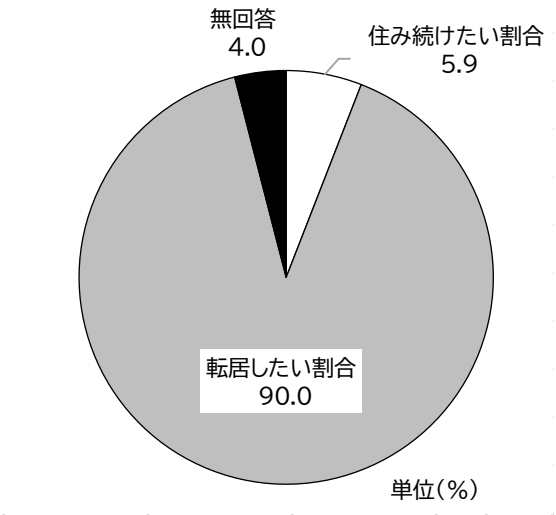
令和元年（高校生n=639）　単数回答



※両調査とも市内居住者の割合。

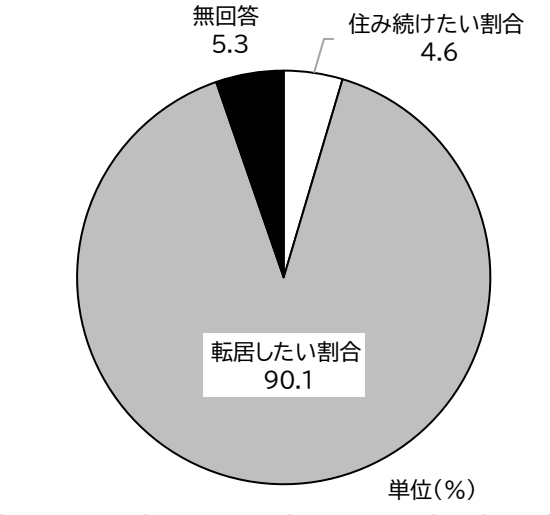
大学生　▼令和６年調査

大学生（n=321）　単数回答



▼令和元年調査

令和元年（大学生n=392）　単数回答



【住み続けたい理由】（市内居住者×居住希望）回答の多い順　単位（%）

順位	選択肢	高校生（n=85）	選択肢	大学生（n=19）
1	自然環境にめぐまれている	49.4	自然環境にめぐまれている	36.8
2	治安がよい	43.5	特に転居したいところがない	36.8
3	両親や親戚が市内に住んでいる	41.2	地域での人間関係がよい	26.3

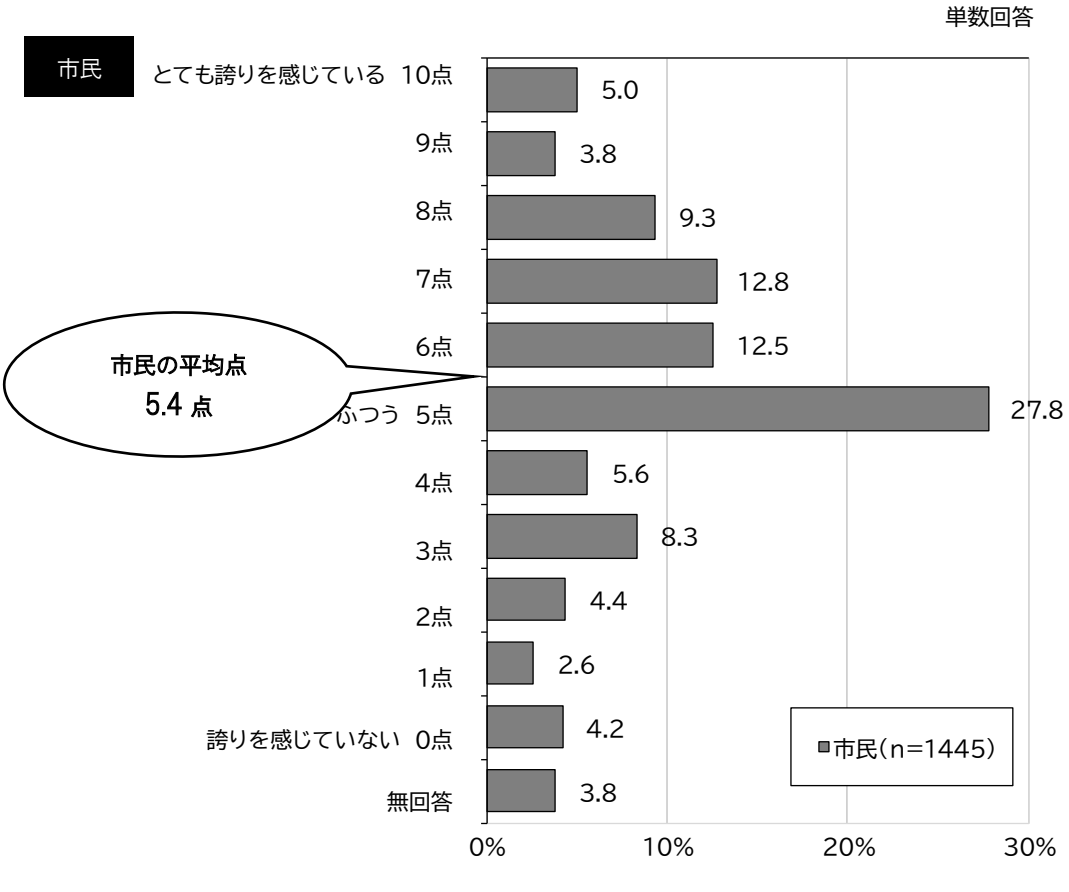
【転居したい理由】（市内居住者×転居希望）回答の多い順　単位（%）

順位	選択肢	高校生（n=157）	選択肢	大学生（n=289）
1	仕事・学校・家庭の事情	52.2	仕事・学校・家庭の事情	61.2
2	交通の便が悪い、通勤・通学に不便	41.4	交通の便が悪い、通勤・通学に不便	39.8
3	買い物や生活に不便	31.8	買い物や生活に不便	36.3

⑦米沢市民としての誇り【市民・高校生・大学生（市内居住者）調査】

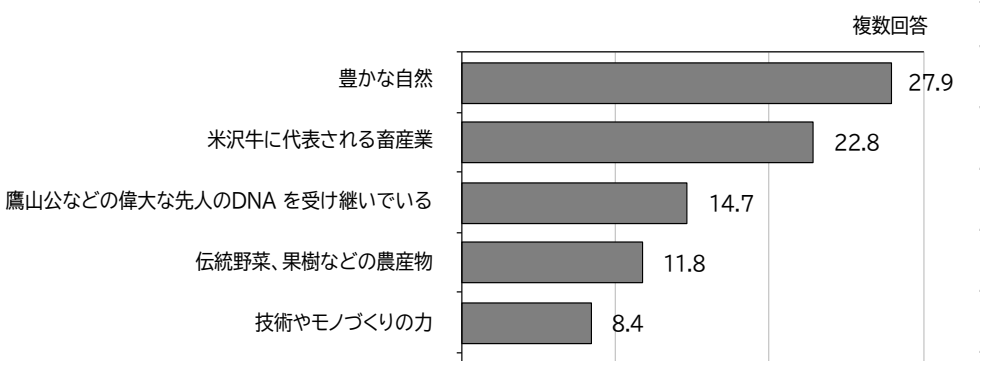
▼考察(結果のポイント)

- 市民としての誇りの平均点（※）は 5.4 点、高校生の平均点（※）は 6.6 点、大学生の平均点（※）は 4.6 点です。
- 高校生の平均点が高い理由としては、小中学校での教育や高校での探求学習の成果と考えられます。また、大学生の平均点が低い理由としては、市外出身者が含まれていることが考えられます。
- 米沢市に誇りを感じる点は、市民、高校生、大学生ともに、「豊かな自然」「米沢牛に代表される畜産業」「鷹山公などの偉大な先人の DNA を受け継いでいる」などが共通しています。

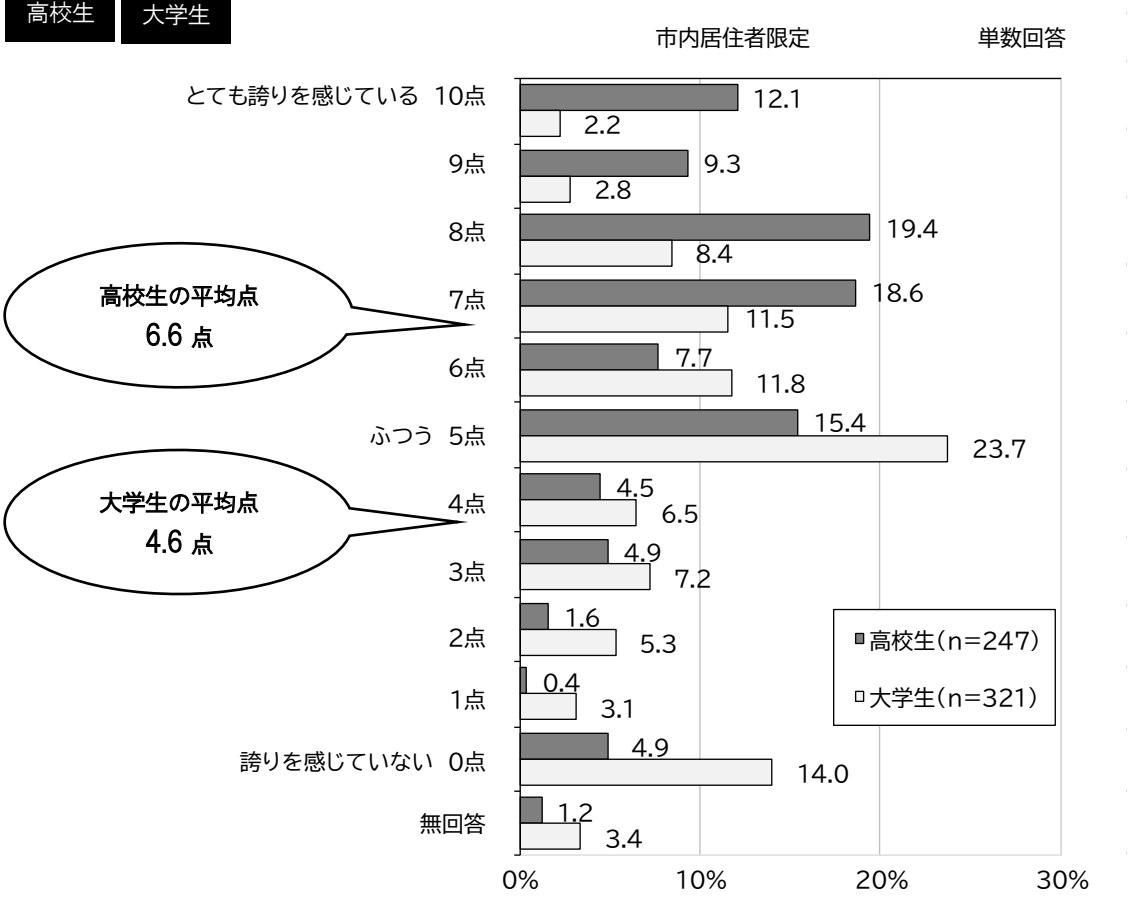


※平均点は、0 点～10 点×各人数の合計点を点数回答者（0 点～10 点の総人数）で除した値。

【米沢市に誇りを感じる点】（上位５項目）



高校生 大学生



※平均点は、0 点～10 点×各人数の合計点を点数回答者（0 点～10 点の総人数）で除した値。

【米沢市に誇りを感じる点】回答の多い順　単位（%）

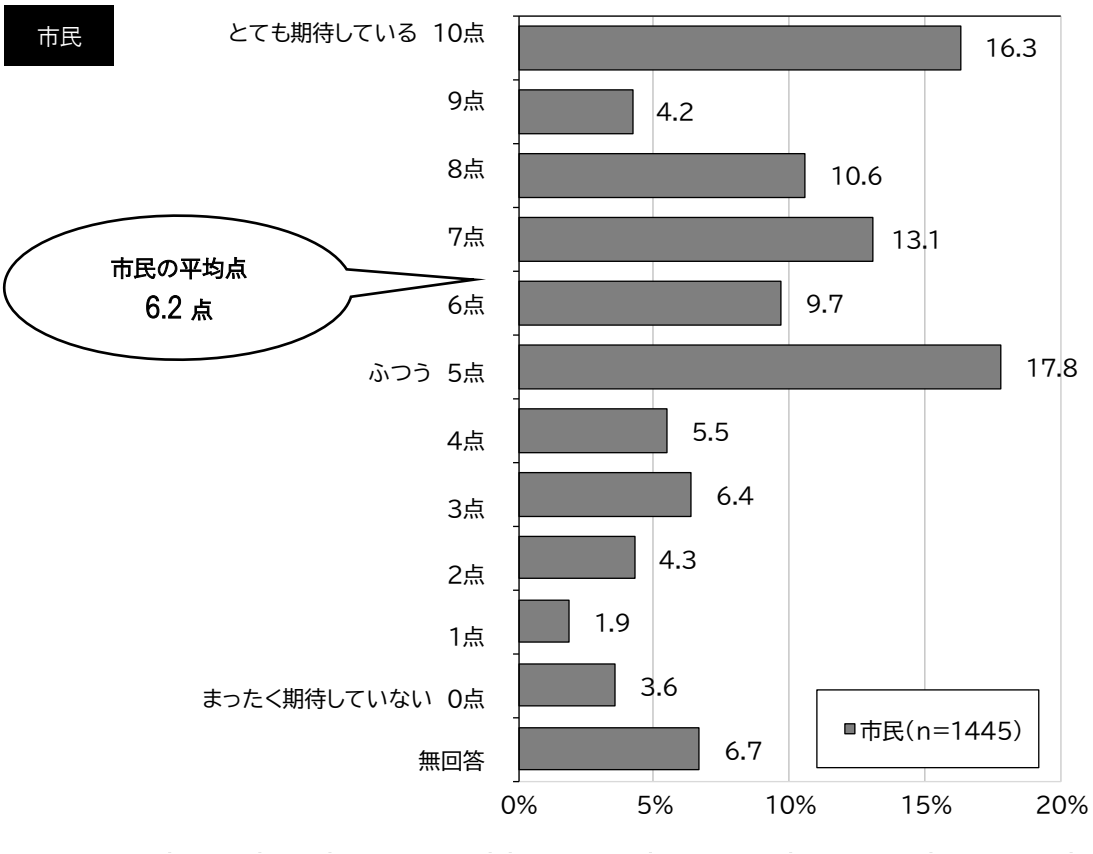
順位	選択肢	高校生 (n=247)	選択肢	大学生 (n=321)
1	豊かな自然	30.0	米沢牛に代表される畜産業	31.5
2	米沢牛に代表される畜産業	22.7	豊かな自然	24.6
3	鷹山公などの偉大な先人の DNA を受け継いでいる	8.9	独自の伝統文化	8.4

⑧米沢市の発展への期待度と協働意欲【市民・高校生・大学生（市内居住者）調査】

▼考察(結果のポイント)

- 市民の米沢市の発展への期待度の平均点（※）は 6.2 点、高校生の平均点（※）は 6.7 点、大学生の平均点（※）は 6.0 点です。市外出身者が多い大学生も含め、どの世代においても米沢市の発展に期待していることがわかりました。
- 米沢市の発展への関わり方として、協働意欲が高い割合（「自ら積極的に行動していきたい」＋「協力できることは協力していきたい」の合計）は市民は 58.2%、高校生は 69.7%、大学生は 44.9%です。

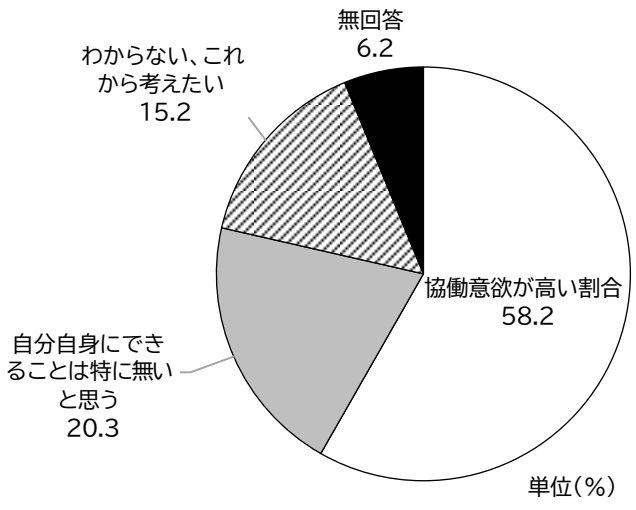
単数回答



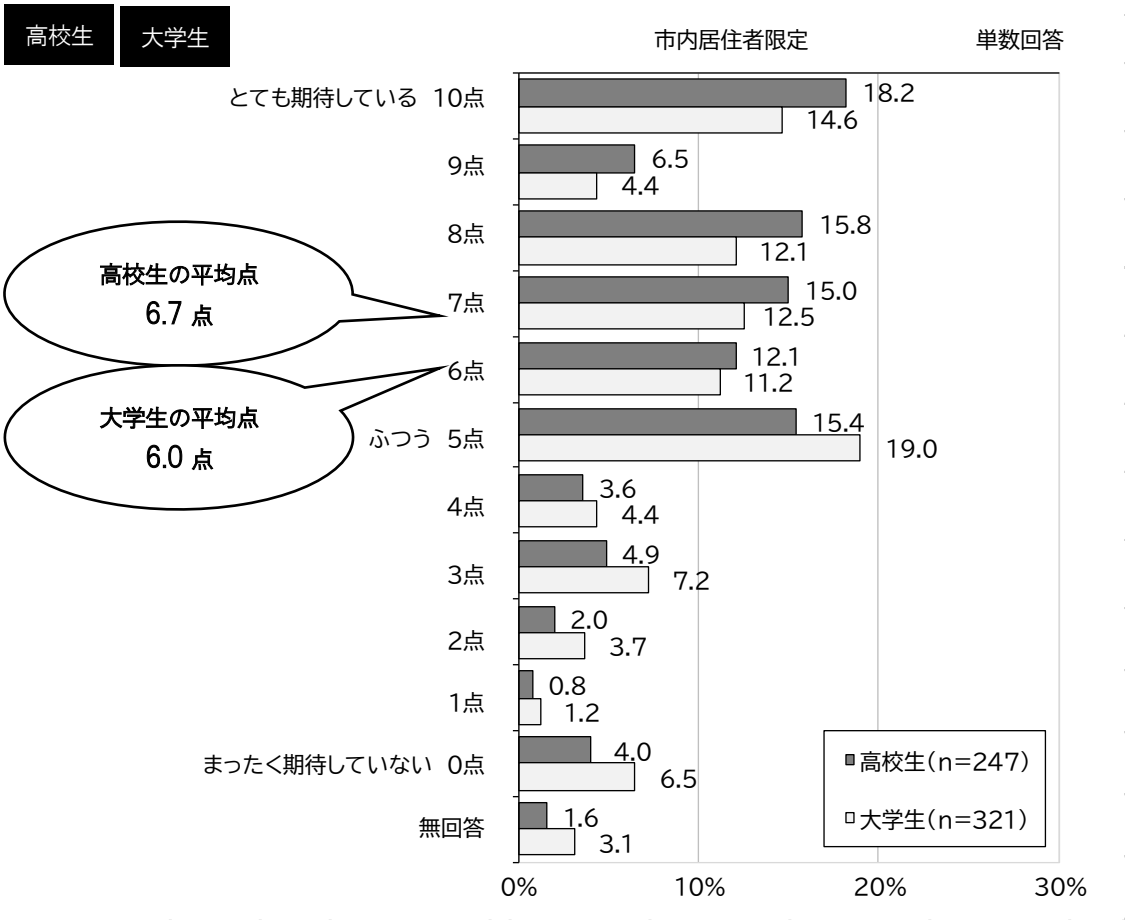
※平均点は、0 点～10 点×各人数の合計点を点数回答者（0 点～10 点の総人数）で除した値。

【米沢市の発展への関わり方】

市民(n=1445)　　単数回答

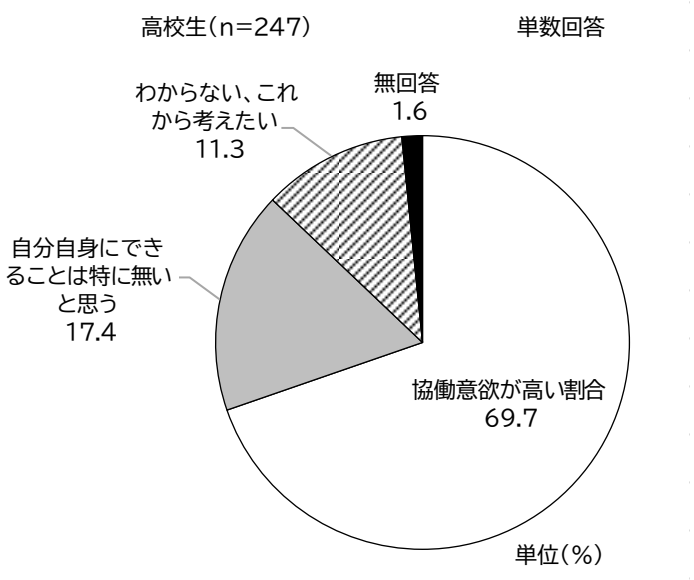


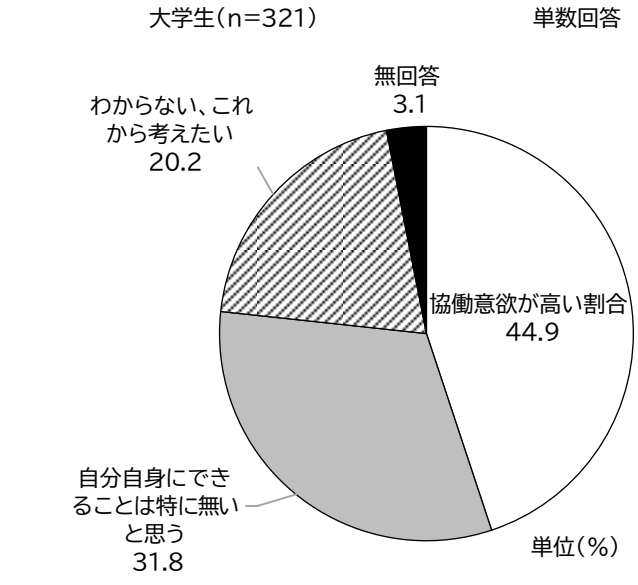
高校生　大学生



※平均点は、0 点～10 点×各人数の合計点を点数回答者（0 点～10 点の総人数）で除した値。

【米沢市への発展への関わり方】





⑨米沢市の将来像（自由記述）【市民・高校生・大学生調査】

項目	市民	高校生	大学生
産業、雇用	● 地方なのに稼げるまち ● 仕事の選択肢を増やす ● 伝統的な産業を大切にしながら新しいことを生み出す	● ショッピングモールやカフェの充実 ● 商業施設の増設	● 雇用と経済の循環 ● 産業が活発なまち ● ものづくりのまちとしての復活
観光、文化	● 米沢の歴史と文化の発信 ● 歴史と風土・食のまち米沢 ● 歴史的景観が残る伝統的なまち	● 観光客が訪れる ● 歴史と文化のPR ● アミューズメント施設の充実	● 米沢牛や日本酒のアピール ● 観光スポットの増加 ● 貴重な文化財の活用
子育て、教育	● こどもたちが笑顔で暮らせるまちづくり ● こどもたちがのびのび生活できる場所	● こどもが自由に学習できる ● こどもが遊べる場所の増設	● 学生が輝けるまち ● 学生が暮らしやすいまち ● 学生が集まりたくなるまち
社会基盤、交通	● 雪問題の解決 ● 移動がスムーズで安全なまち	● 公共交通機関の充実 ● 車の渋滞解消	● 雪対策がしっかりしているまち ● 交通手段が十分に整備されたまち
自然環境、持続可能性	● 空気のきれいなまち ● 持続可能なまちづくり	● 自然豊か ● 緑があふれる	● 緑豊かなまち ● 自然を守り、暮らしやすいまち
コミュニティ	● 老若男女が助け合う環境 ● 人々が助け合い愛が溢れるまち ● 健康長寿なまち	● 住みやすい ● 安全なまち ● 高齢者に優しい	● 戻りたくなるまち ● 子どもから高齢者までが生き生きと活動できるまち ● 高齢者と若者の交流

第３章　調査結果分析

（1）世代分析　～世代でみる意識

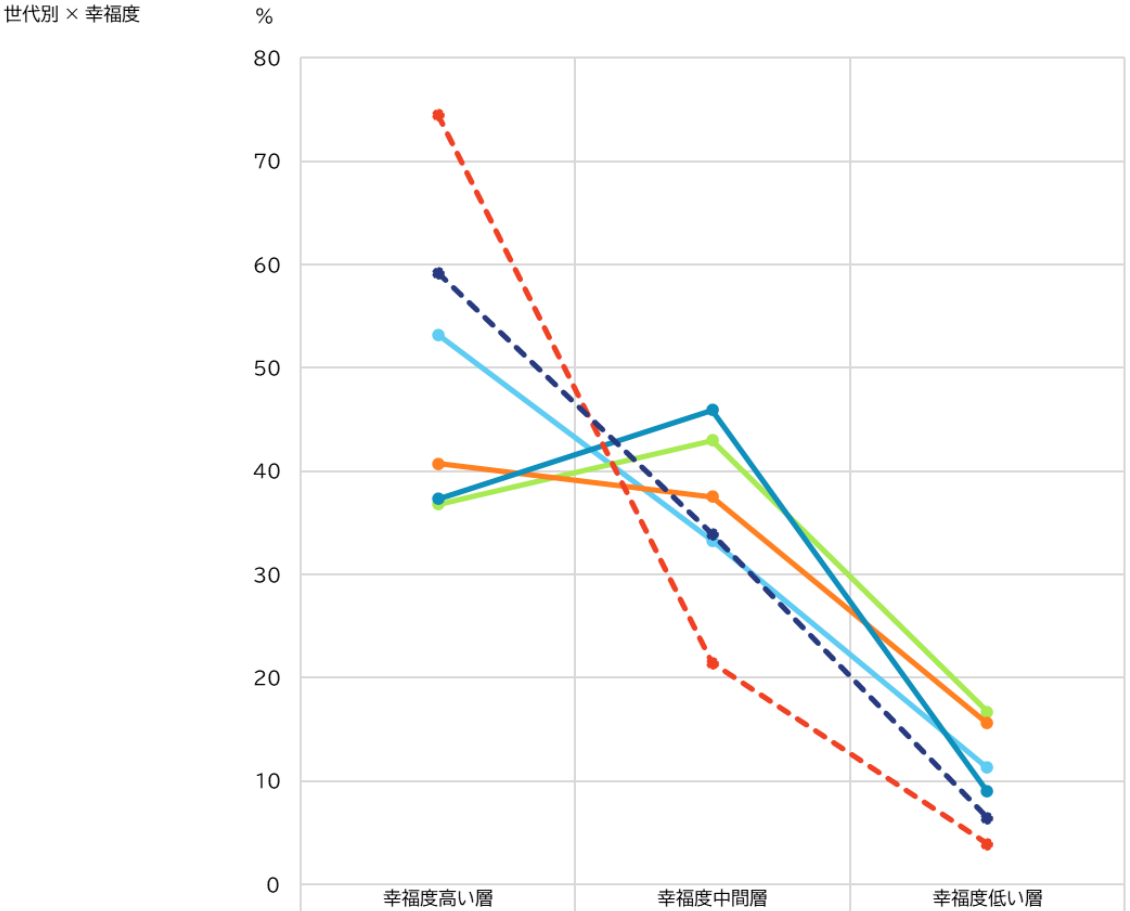
（無回答は非表示のため、選択肢の合計が 100%にならない場合がある）

① 幸福度

- 30・40 歳代と 70 歳以上を除き、幸福度高い層（10～７点）が最も高くなっています。
- 30・40 歳代と 70 歳以上は幸福度中間層（６～４点）が最も高くなっています。
- その中で、幸福度高い層（10～７点）は高校生が最も高く、74.5%に上ります。大学生、10・20 歳代がそれに続いています。
- 幸福度低い層（３～０点）がやや高いのは 30・40 歳代と 50・60 歳代です。

▼考察(結果のポイント)

- 高校生、大学生、10・20 歳代は半数以上の人が幸福であると回答しています。
- この結果も踏まえた上で、市民の幸福度をさらに引き上げる取組が求められます。



	幸福度高い層（10～7点）	幸福度中間層（6～4点）	幸福度低い層（3～0点）
10･20歳代(n=186)	53.2	33.3	11.3
30･40歳代(n=419)	36.8	43.0	16.7
50･60歳代(n=550)	40.7	37.5	15.6
70歳以上(n=244)	37.3	45.9	9.0
高校生(n=408)	74.5	21.4	3.9
大学生(n=351)	59.2	33.9	6.4

【参考】男女別×幸福度(市民調査)

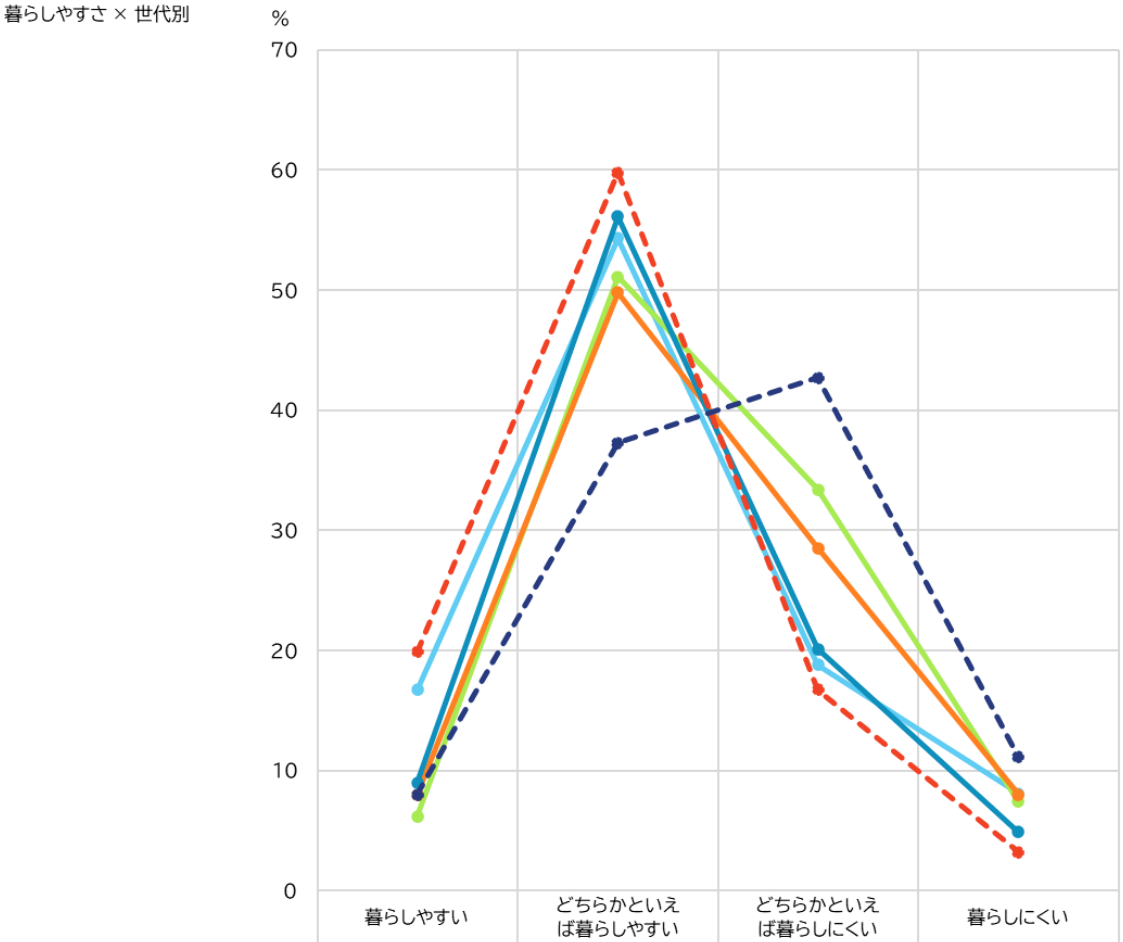
	幸福度高い層（10～7点）	幸福度中間層（6～4点）	幸福度低い層（3～0点）
男性(n=620)	38.7	40.2	17.3
女性(n=764)	42.3	40.2	11.5

② 暮らしやすさの評価

- 米沢市の暮らしやすさの評価は、大学生を除き、多くの世代で「どちらかといえば暮らしやすい」が最も高くなっています。
- 大学生は「どちらかといえば暮らしにくい」が最も高く、また、ほかの世代より「暮らしにくい」が高くなっています。
- 高校生、10・20 歳代、70 歳以上は同じような傾向であり、ほかの世代より「暮らしやすい」が高く、「どちらかといえば暮らしにくい」が少なくなっています。
- 30・40 歳代と 50・60 歳代は同じような傾向であり、大学生の次に「どちらかといえば暮らしにくい」が高くなっています。

▼考察(結果のポイント)

- 大学生（市外居住者を含む）からみた米沢市の暮らしやすさの評価がほかの世代に比べて低いことは、学園都市である本市の課題です。
- どの世代においても暮らしやすいまちづくりが求められます。



	暮らしやすい	どちらかといえば暮らしやすい	どちらかといえば暮らしにくい	暮らしにくい
10・20歳代(n=186)	16.7	54.3	18.8	8.1
30・40歳代(n=419)	6.2	51.1	33.4	7.4
50・60歳代(n=550)	8.0	49.8	28.5	8.0
70歳以上(n=244)	9.0	56.1	20.1	4.9
高校生(n=408)	19.9	59.8	16.7	3.2
大学生(n=351)	8.0	37.3	42.7	11.1

【参考】暮らしやすさ×男女別(市民調査)

	暮らしやすい	どちらかといえば暮らしやすい	どちらかといえば暮らしにくい	暮らしにくい
男性(n=620)	8.1	53.5	26.1	7.6
女性(n=764)	9.2	51.7	27.7	6.7

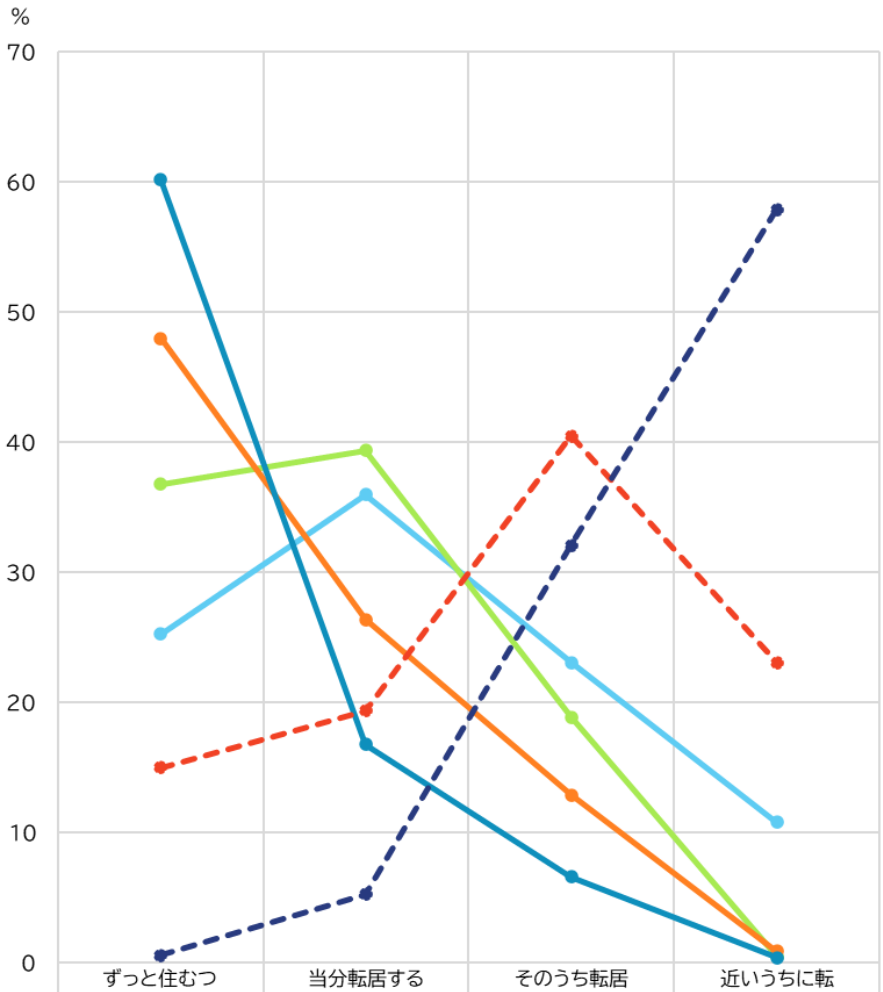
③ 居住意向

- 高校生と大学生（※）は、「そのうち転居したい」と「近いうちに転居する」がほかの世代より高く、転居意向が強くなっています。
- 居住意向（「ずっと住むつもりである」＋「当分転居するつもりはない」の合計）でみると、10・20 歳代で６割台、30・40 歳代、50・60 歳代、70 歳以上で７割台となっています。

▼考察(結果のポイント)

- 高校生と大学生の転居意向が高い理由としては、進学や就職を控えていることが考えられます。
- 10・20 歳代、30・40 歳代で２～３割の転居意向がありますが、この世代は就職・転職、結婚、出産・子育て、親の介護、家の購入など、ライフスタイルの変化が多い世代であることが考えられます。
- 特に若い世代にとってライフスタイルの変化があったとしても住み続けたいと思える、選んでもらえるまちづくりが求められます。

居住意向 × 世代別



	ずっと住むつもりである	当分転居するつもりはない	そのうち転居したい	近いうちに転居する
10･20歳代(n=186)	25.3	36.0	23.1	10.8
30･40歳代(n=419)	36.8	39.4	18.9	0.5
50･60歳代(n=550)	48.0	26.4	12.9	0.9
70歳以上(n=244)	60.2	16.8	6.6	0.4
高校生(n=247)	15.0	19.4	40.5	23.1
大学生(n=321)	0.6	5.3	32.1	57.9

※高校生、大学生は市内居住者の回答。

【参考】居住意向×男女別(市民調査)

	ずっと住むつもりである	当分転居するつもりはない	そのうち転居したい	近いうちに転居する
男性(n=620)	46.5	31.8	13.2	1.3
女性(n=764)	42.0	28.7	15.8	2.6

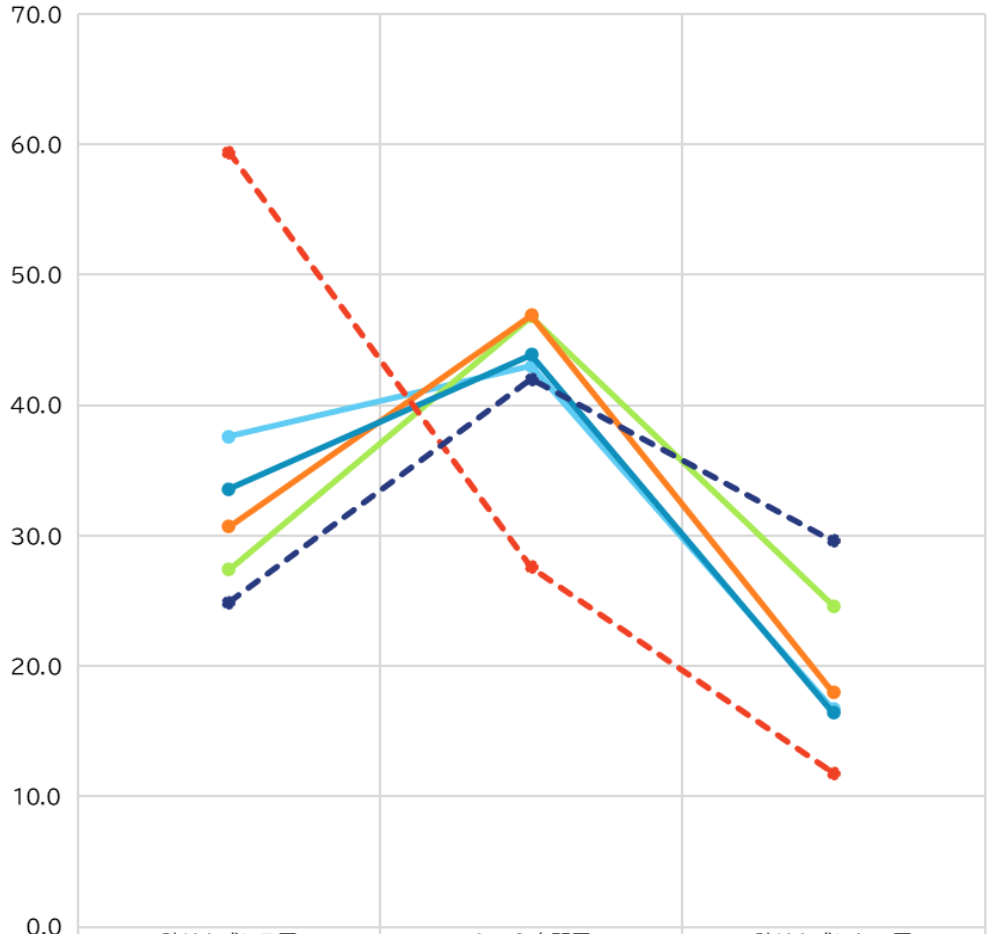
④ 市民としての誇り

- 誇りを感じない層（３～０点）が最も高いのは大学生（※）、誇りを感じる層（10～７点）が最も高いのは高校生（※）です。
- 誇りを感じる層（10～７点）が 50%を超える世代は、高校生です。

▼考察(結果のポイント)

- 市内出身者が多いと考えられる高校生に誇りを感じる層が高いことは、これまでのまちづくりの成果であると考えられます。
- 大学生に誇りを感じない層が多い理由としては、市外出身者が含まれていることが考えられます。
- 市内在住期間の短い大学生も含め、どの世代においても誇りを感じる割合をさらに高める取組が求められます。

誇り度 × 世代別　　%



	誇りを感じる層（10～7点）	ふつう中間層（6～4点）	誇りを感じない層（3～0点）
10・20歳代(n=186)	37.6	43.0	16.7
30・40歳代(n=419)	27.4	46.8	24.6
50・60歳代(n=550)	30.7	46.9	18.0
70歳以上(n=244)	33.6	43.9	16.4
高校生(n=247)	59.4	27.6	11.8
大学生(n=321)	24.9	42.0	29.6

※高校生、大学生は市内居住者の回答。

【参考】誇り度×男女別(市民調査)

	誇りを感じる層（10～7点）	ふつう中間層（6～4点）	誇りを感じない層（3～0点）
男性(n=620)	30.3	46.6	19.8
女性(n=764)	31.7	45.8	18.7

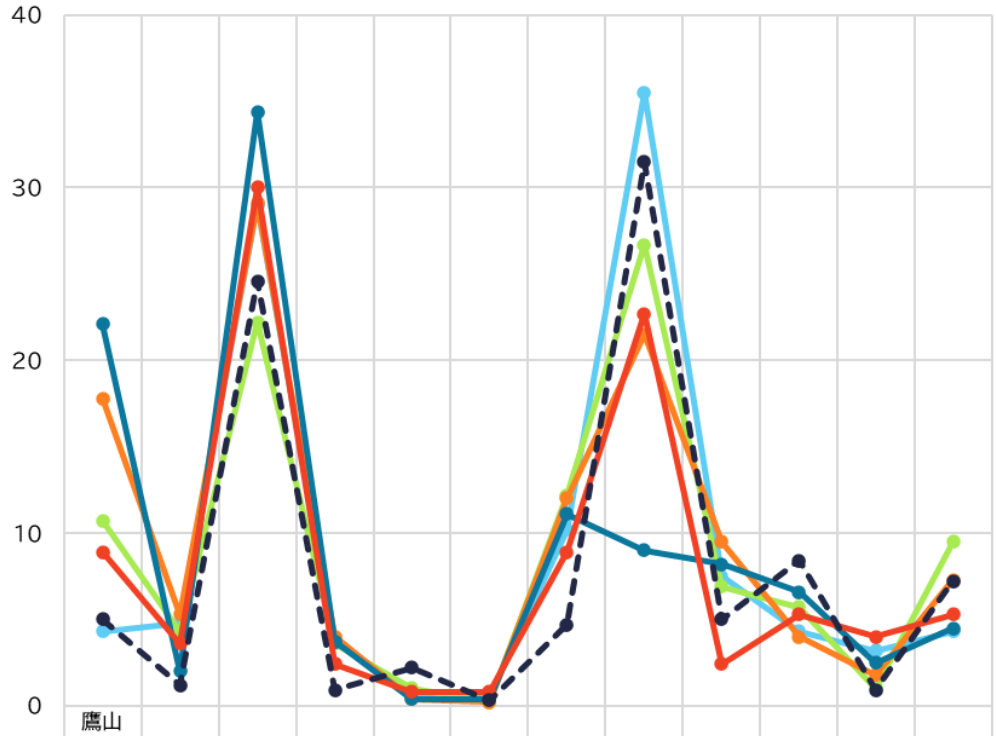
⑤ 誇りを感じるところ

- 米沢市の誇りを感じるところは、多くの世代で「豊かな自然」と「米沢牛に代表される畜産業」が高くなっています。
- 大学生（※）と 10・20 歳代は、「米沢牛に代表される畜産業」がほかの世代より高くなっています。
- 50・60 歳代と 70 歳以上は、「鷹山公などの偉大な先人の DNA を受け継いでいる」がほかの世代より高くなっています。

▼考察(結果のポイント)

- 米沢市の誇りを感じるところは、多くの世代で同じような傾向です。自然、畜産業、先人の功績など、いずれの項目も長い時間をかけて先人たちが紡ぎ続けてきたものです。
- これらを引き続き大切にしつつ、市民としての誇りが高まる取組を進めることが求められます。

誇りを感じるところ × 世代別　%



	鷹山公などの偉大な先人のDNAを受け継いでいる	米沢人としてのアイデンティティ	豊かな自然	独自の生活文化	新たなことに挑戦する姿勢	新たな価値を創造する姿勢	伝統野菜、果樹などの農産物	米沢牛に代表される畜産業	技術やモノづくりの力	独自の伝統文化	人を育てる環境	その他
10・20歳代(n=186)	4.3	4.8	29.0	3.8	0.5	0.5	10.2	35.5	7.5	4.3	3.2	4.3
30・40歳代(n=419)	10.7	4.3	22.2	3.6	1.0	0.2	12.2	26.7	6.9	5.7	1.0	9.5
50・60歳代(n=550)	17.8	5.3	29.1	4.0	0.4	0.2	12.0	21.5	9.5	4.0	1.8	7.3
70歳以上(n=244)	22.1	2.0	34.4	3.7	0.4	0.4	11.1	9.0	8.2	6.6	2.5	4.5
高校生(n=247)	8.9	3.6	30.0	2.4	0.8	0.8	8.9	22.7	2.4	5.3	4.0	5.3
大学生(n=321)	5.0	1.2	24.6	0.9	2.2	0.3	4.7	31.5	5.0	8.4	0.9	7.2

※高校生、大学生は市内居住者の回答。

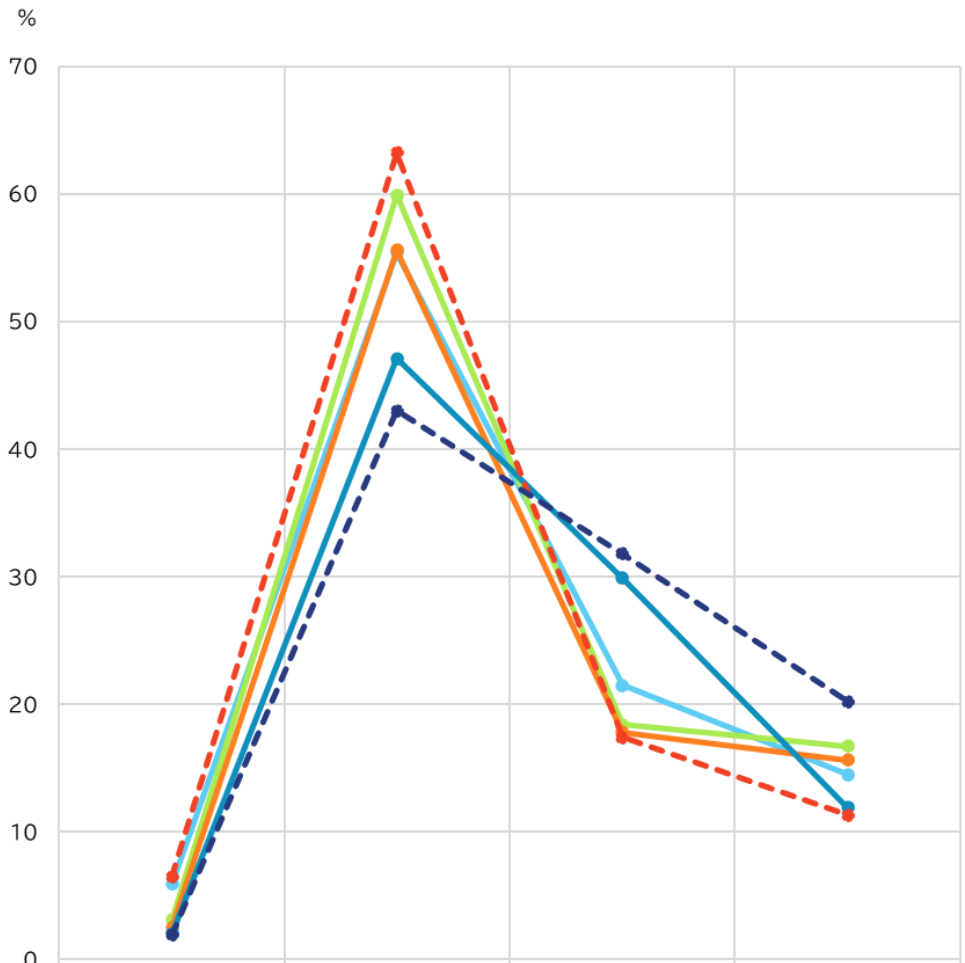
⑥ 協働意欲

- 米沢市の発展への関わり方について、全ての世代で「協力できることは協力していきたい」が最も高くなっています。
- 大学生（※）と 70 歳以上は、「自分自身にできることは特に無いと思う」がほかの世代より高くなっています。

▼考察(結果のポイント)

- 市外出身者も含まれている大学生と 70 歳以上は５割を下回るものの、高校生と各世代の市民は、協働意欲（「自ら積極的に行動していきたい」＋「協力できることは協力していきたい」の合計）が５割を超えています。
- 大学生も含め、市民の協働意欲をさらに高める取組が求められます。

協働意欲 × 世代別



	自ら積極的に行動していきたい	協力できることは協力していきたい	自分自身にできることは特に無いと思う	わからない、これから考えたい
10･20歳代(n=186)	5.9	55.4	21.5	14.5
30･40歳代(n=419)	3.1	59.9	18.4	16.7
50･60歳代(n=550)	2.5	55.6	17.8	15.6
70歳以上(n=244)	2.0	47.1	29.9	11.9
高校生(n=247)	6.5	63.2	17.4	11.3
大学生(n=321)	1.9	43.0	31.8	20.2

※高校生、大学生は市内居住者の回答。

【参考】協働意欲×男女別(市民調査)

	自ら積極的に行動していきたい	協力できることは協力していきたい	自分自身にできることは特に無いと思う	わからない、これから考えたい
男性(n=620)	4.0	56.8	20.5	13.5
女性(n=764)	2.4	55.5	20.3	16.2

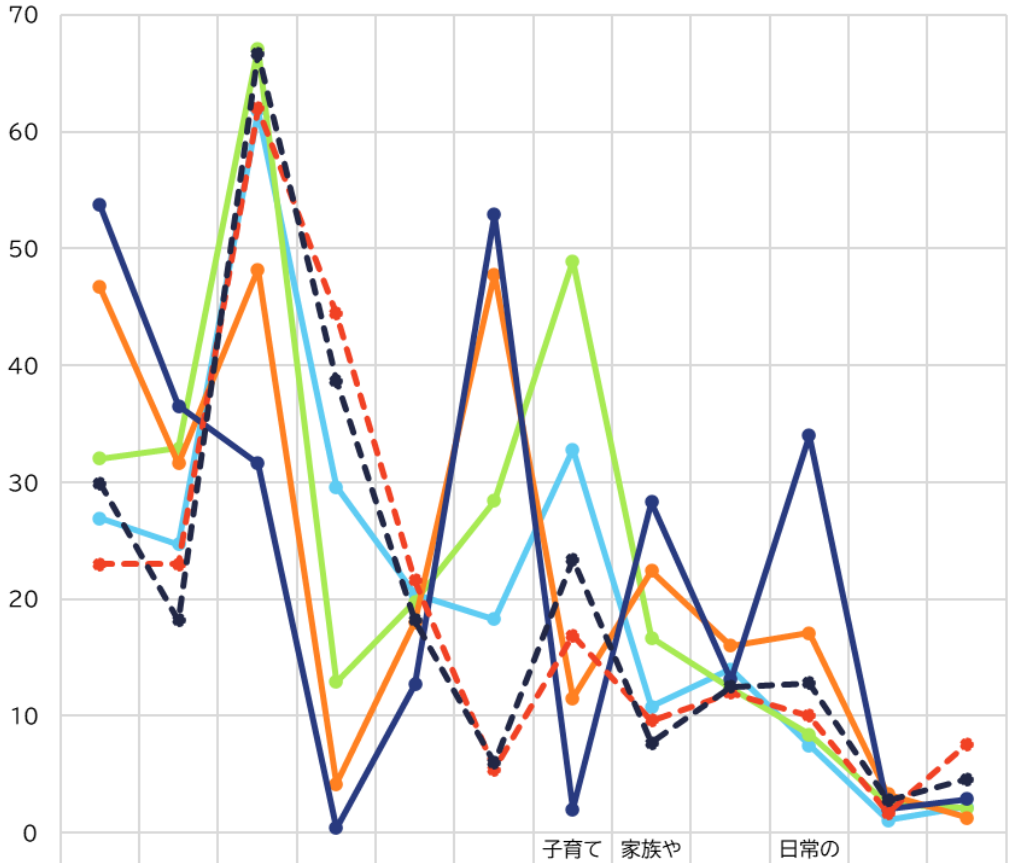
⑦ 将来の悩み・不安

- 将来の悩みや不安は、多くの世代で「収入や家計に関すること」が高く、「自分の健康に関すること」も全ての世代で一定程度の割合がみられます。
- 各世代の主な特徴をみると、高校生、大学生は「就職に関すること」、10・20 歳代は「就職に関すること」と「子育てや子どもの将来に関すること」、30・40 歳代は「子育てや子どもの将来に関すること」、50・60 歳代は「自分の健康に関すること」、「介護や医療に関すること」、「日常の買い物や移動手段に関すること」、70 歳以上は「自分の健康に関すること」、「家族の健康に関すること」、「介護や医療に関すること」、「家族や配偶者に先立たれた後のこと」、「日常の買い物や移動手段に関すること」がほかの世代より高くなっています。

▼考察(結果のポイント)

- 全ての世代に共通している「経済基盤」と「健康」は生きる上でなくてはならないものです。また、世代によってライフスタイルの変化があり、将来の不安も異なってきます。
- 各世代が感じている不安を解消し、一人一人が健やかな暮らしをするために、行政、市民、企業などがそれぞれの役割を果たしていくことが求められます。

将来の不安 × 世代別　　%



	自分の健康に関すること	家族の健康に関すること	収入や家計に関すること	就職に関すること	住まいに関すること	介護や医療に関すること	子育てや子どもの将来に関すること	家族や配偶者に先立たれた後のこと	災害に関すること	日常の買い物や移動手段に関すること	その他	特にない
10・20歳代(n=186)	26.9	24.7	61.8	29.6	20.4	18.3	32.8	10.8	14.0	7.5	1.1	2.2
30・40歳代(n=419)	32.0	32.9	67.1	12.9	19.8	28.4	48.9	16.7	12.4	8.4	2.4	2.1
50・60歳代(n=550)	46.7	31.6	48.2	4.2	18.0	47.8	11.5	22.4	16.0	17.1	3.3	1.3
70歳以上(n=244)	53.7	36.5	31.6	0.4	12.7	52.9	2.0	28.3	13.1	34.0	2.0	2.9
高校生(n=408)	23.0	23.0	62.0	44.4	21.6	5.4	16.9	9.6	12.0	10.0	1.7	7.6
大学生(n=351)	29.9	18.2	66.7	38.7	18.2	6.0	23.4	7.7	12.5	12.8	2.8	4.6

（2）幸福度分析　～幸福度との関連性

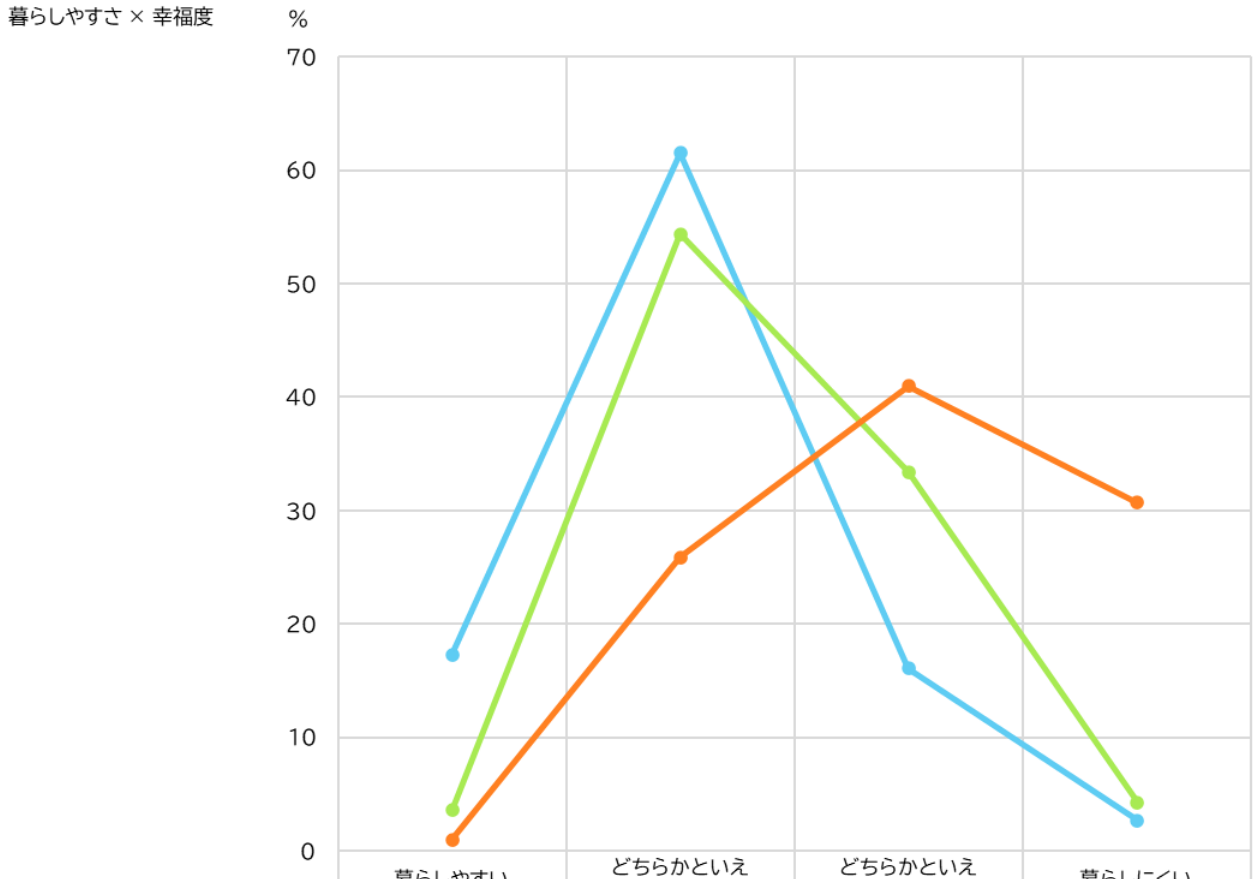
（無回答は非表示のため、選択肢の合計が 100%にならない場合がある）

① 暮らしやすさの評価

- 幸福度（３段階）の回答を暮らしやすさの評価別（市民調査）でみると、顕著な違いがみられます。
- 幸福度高い層（10～７点）と幸福度中間層（６～４点）は「どちらかといえば暮らしやすい」が最も高く、幸福度低い層（３～０点）は「どちらかといえば暮らしにくい」が最も高く、また、「暮らしにくい」もほかの層に比べて高くなっています。

▼考察(結果のポイント)

- 幸福度の高さと暮らしやすさは関連していると考えられます。
- 市民の幸福度を高めるため、市民が暮らしやすい理由（自然の豊かさ、災害が少ない等）をさらに高めるとともに、暮らしにくい理由（除雪が大変、移動手段が不便等）を改善する取組が求められます。



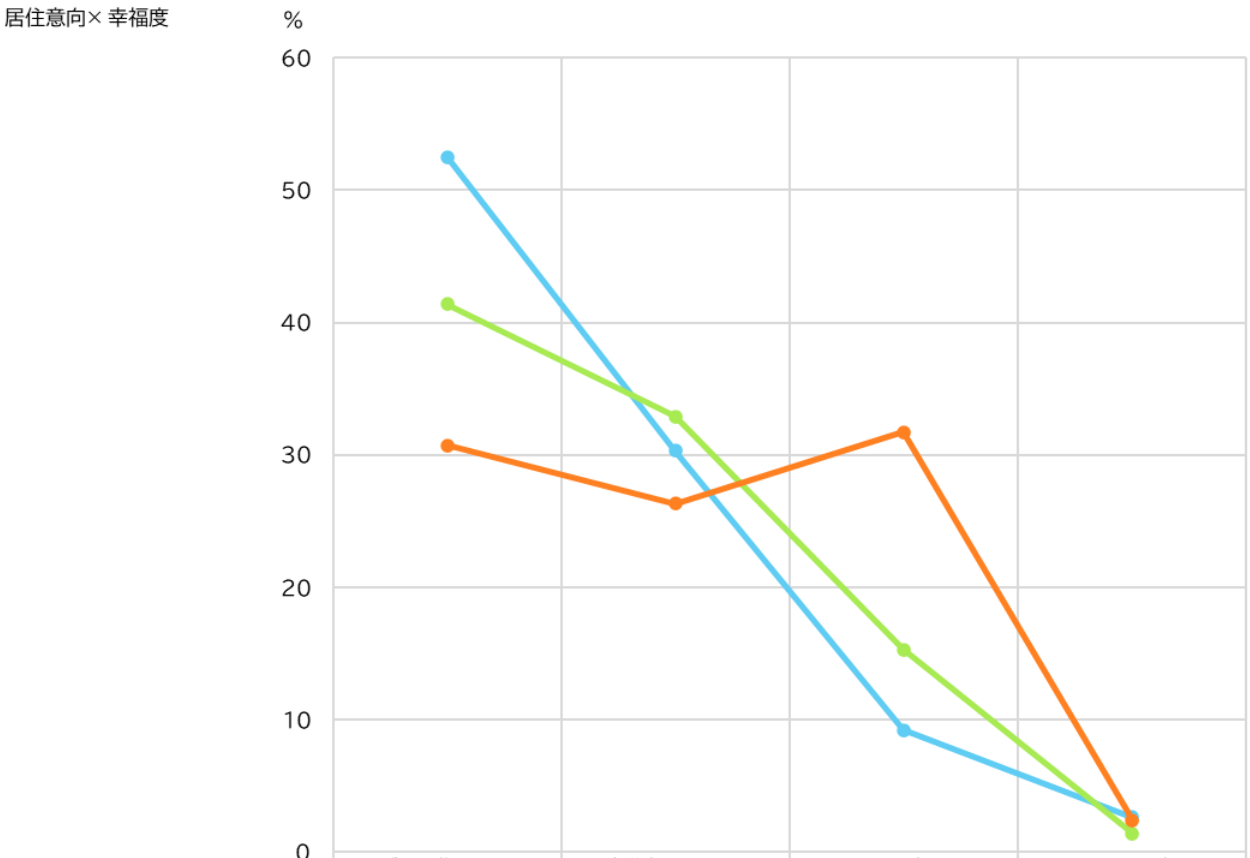
	暮らしやすい	どちらかといえば暮らしやすい	どちらかといえば暮らしにくい	暮らしにくい
幸福度高い層(10～7点)(n=585)	17.3	61.5	16.1	2.7
幸福度中間層(6～4点)(n=577)	3.6	54.4	33.4	4.3
幸福度低い層(3～0点)(n=205)	1.0	25.9	41.0	30.7

② 居住意向

- 幸福度（３段階）の回答を居住意向別（市民調査）でみると、同じような傾向となっています。
- 幸福度高い層（10～７点）、幸福度中間層（６～４点）は「ずっと住むつもりである」が最も高く、幸福度低い層（３～０点）は「そのうち転居したい」が最も高くなっています。

▼考察(結果のポイント)

- 幸福度の低さと転居意向は関連していると考えられます。
- 転居意向の回答者が挙げる転居したい理由（買い物や生活に不便、交通の便が悪い、通勤・通学に不便等）を改善する取組が求められます。



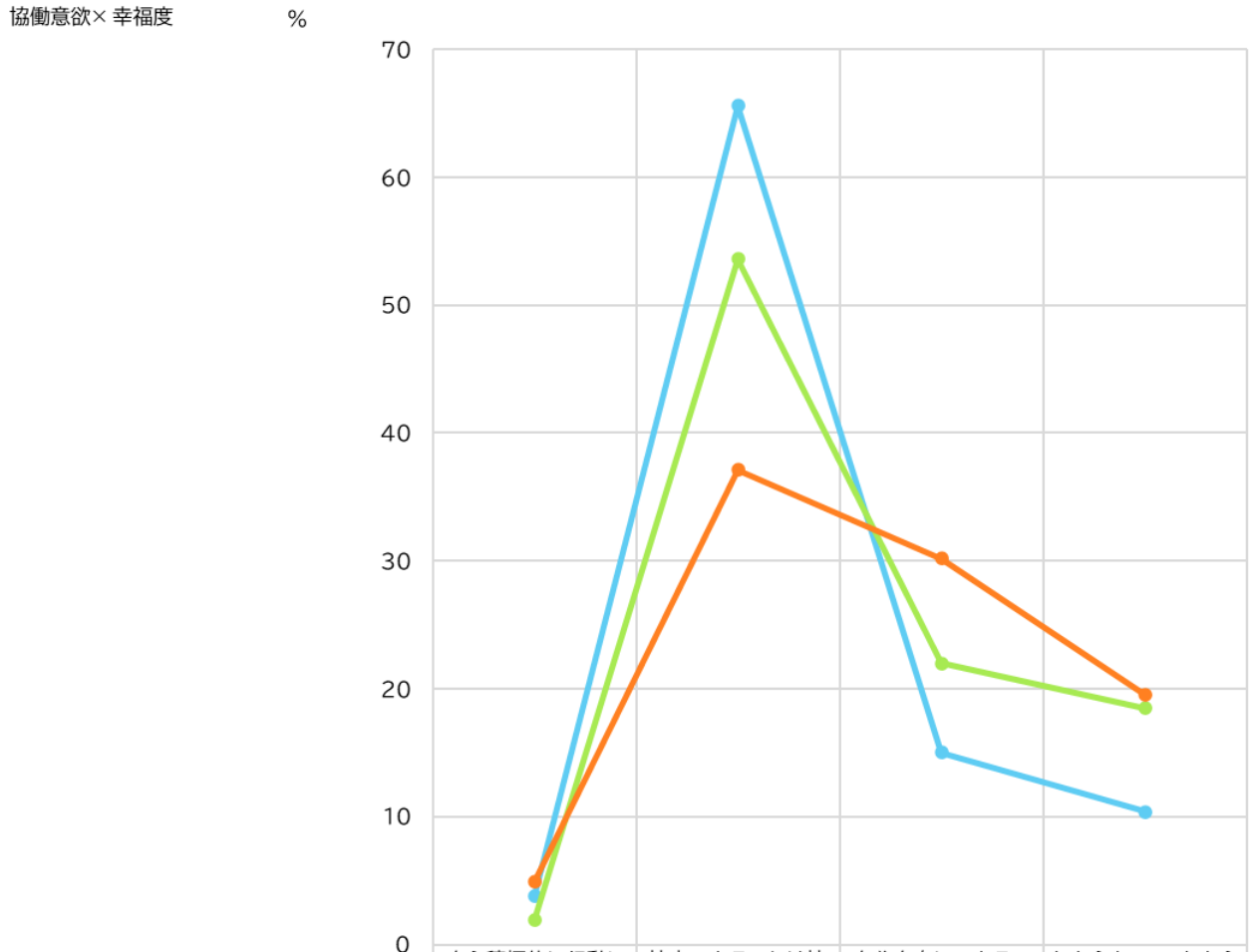
	ずっと住むつもりである	当分転居するつもりはない	そのうち転居したい	近いうちに転居する
幸福度高い層(10～7点)(n=585)	52.5	30.3	9.2	2.6
幸福度中間層(6～4点)(n=577)	41.4	32.9	15.3	1.4
幸福度低い層(3～0点)(n=205)	30.7	26.3	31.7	2.4

③ 協働意欲

- 幸福度（３段階）の回答を協働意欲別（市民調査）でみると、同じような傾向となっています。その中でも、幸福度による協働意欲の違いがみられます。
- 幸福度高い層（10～７点）、幸福度中間層（６～４点）、幸福度低い層（３～０点）のいずれも「協力できることは協力していきたい」が最も高くなっています。
- 幸福度高い層（10～７点）の「協力できることは協力していきたい」の割合は、幸福度中間層（６～４点）、幸福度低い層（３～０点）を大きく上回っています。

▼考察(結果のポイント)

- 幸福度の高さは協働意欲の高さと関連していると考えられます。
- 市民の幸福度を高めるため、地域とのつながりや市民が参画する機会を増やし、市民の協働意欲をさらに高める取組が求められます。



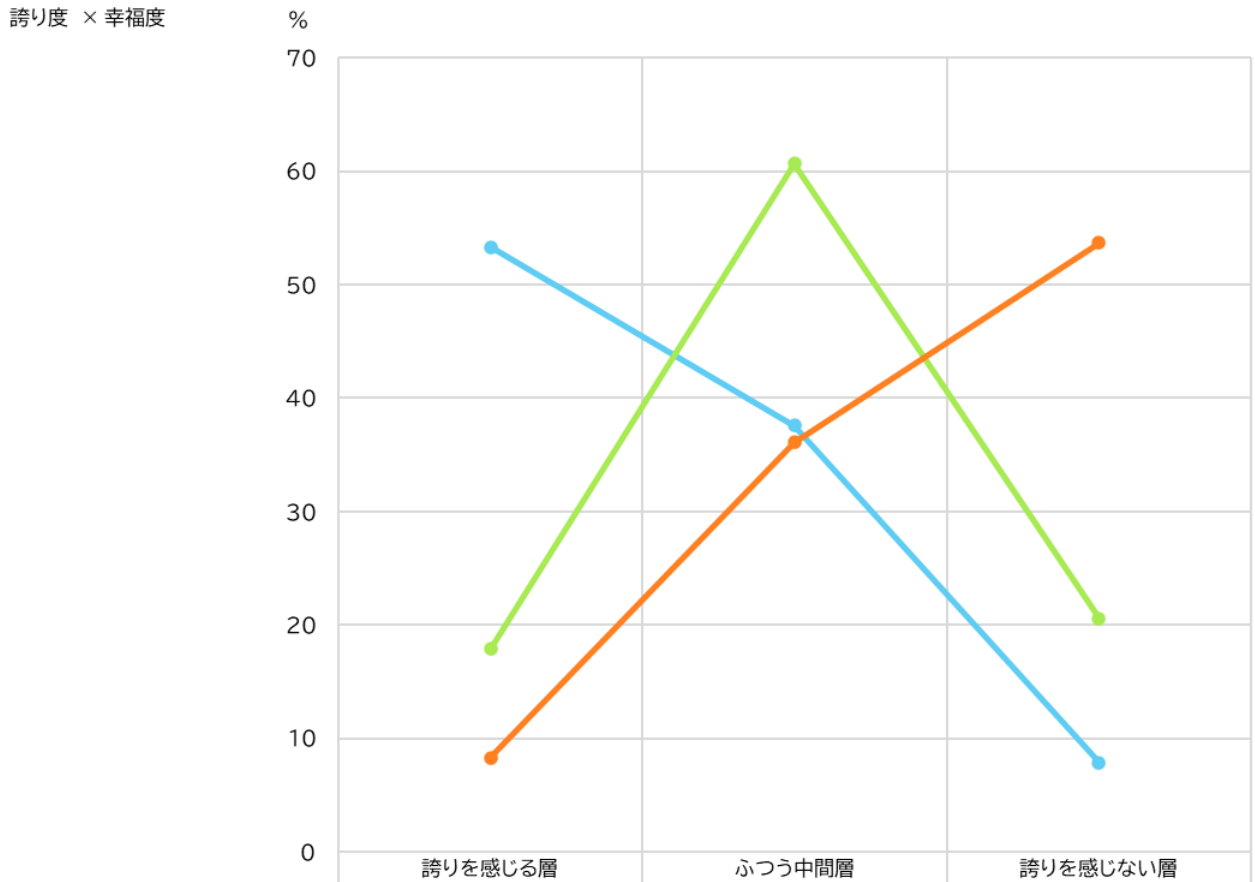
	自ら積極的に行動していきたい	協力できることは協力していきたい	自分自身にできることは特に無いと思う	わからない、これから考えたい
幸福度高い層(10~7点)(n=585)	3.8	65.6	15.0	10.4
幸福度中間層(6~4点)(n=577)	1.9	53.6	22.0	18.5
幸福度低い層(3~0点)(n=205)	4.9	37.1	30.2	19.5

④ 市民としての誇り

- 幸福度（３段階）の回答を市民としての誇り別（市民調査）でみると、顕著な違いがみられます。
- 幸福度低い層（３～０点）は誇りを感じない層（３～０点）が高い一方、幸福度高い層（10～７点）は誇りを感じる層（10～７点）が高くなっています。

▼考察(結果のポイント)

- 幸福度の高さは市民としての誇りの高さと関連していると考えられます。
- 教育環境の充実や地域の魅力発信などが市民としての誇り（シビックプライド）の醸成につながることから、そうした取組を増やしていくことが求められます。



	誇りを感じる層（10～7点）	ふつう中間層（6～4点）	誇りを感じない層（3～0点）
幸福度高い層(10～7点)(n=585)	53.3	37.6	7.9
幸福度中間層(6～4点)(n=577)	17.9	60.7	20.6
幸福度低い層(3～0点)(n=205)	8.3	36.1	53.7

（3）市民の暮らし分析　～日々の取組等との関連性

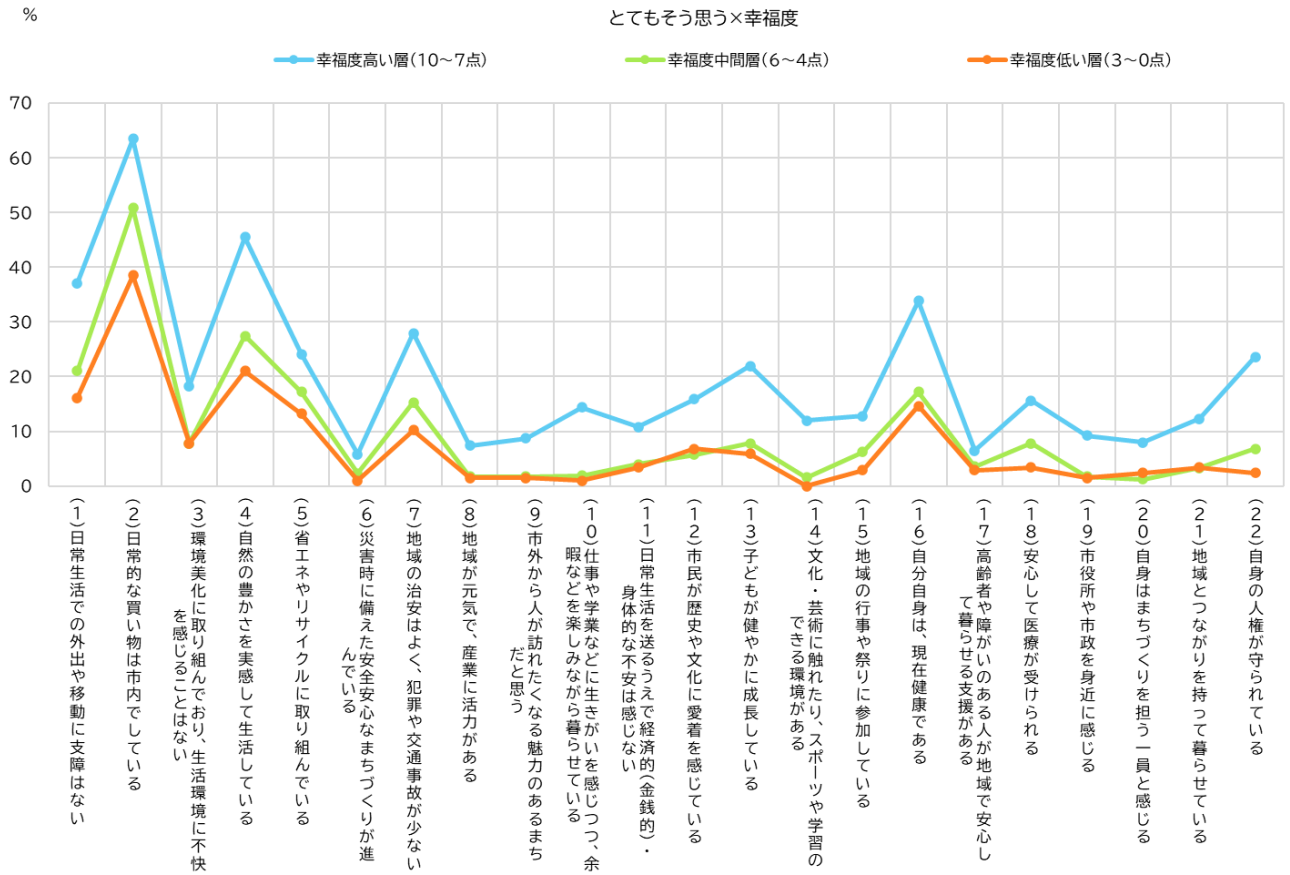
（無回答は非表示のため、選択肢の合計が 100%にならない場合がある）

① 幸福度×日々の取組（とてもそう思う）

- 幸福度別（３段階）の回答を日々の取組（普段の暮らしで感じることや取り組んでいることの「とてもそう思う」の割合）（市民調査）でみると、同じような傾向となっています。その中でも、幸福度高い層（10～７点）が全項目で幸福度中間層（６～４点）と幸福度低い層（３～０点）を上回っています。
- 幸福度高い層（10～７点）が高い項目の上位は、「（2）日常的な買い物は市内でしている」、「（4）自然の豊かさを実感して生活している」、「（1）日常生活での外出や移動に支障はない」、「（16）自分自身は、現在健康である」、「（7）地域の治安はよく、犯罪や交通事故が少ない」です。

▼考察(結果のポイント)

- 市民の幸福度の高さは、市内の買い物環境、自然の豊かさ、外出・移動のしやすさ、健康、安全、人権尊重と関連していると考えられることから、こうした事項をさらに高める取組が求められます。



- 幸福度高い層（10～7 点）と幸福度低い層（3～0 点）の差が大きい項目は下表のとおりです。

項目（とてもそう思う）	差（ポイント）※
（２）日常的な買い物は市内でしている	24.9
（４）自然の豊かさを実感して生活している	24.5
（22）自身の人権が守られている	21.2
（1）日常生活での外出や移動に支障はない	21.0
（16）自分自身は、現在健康である	19.2

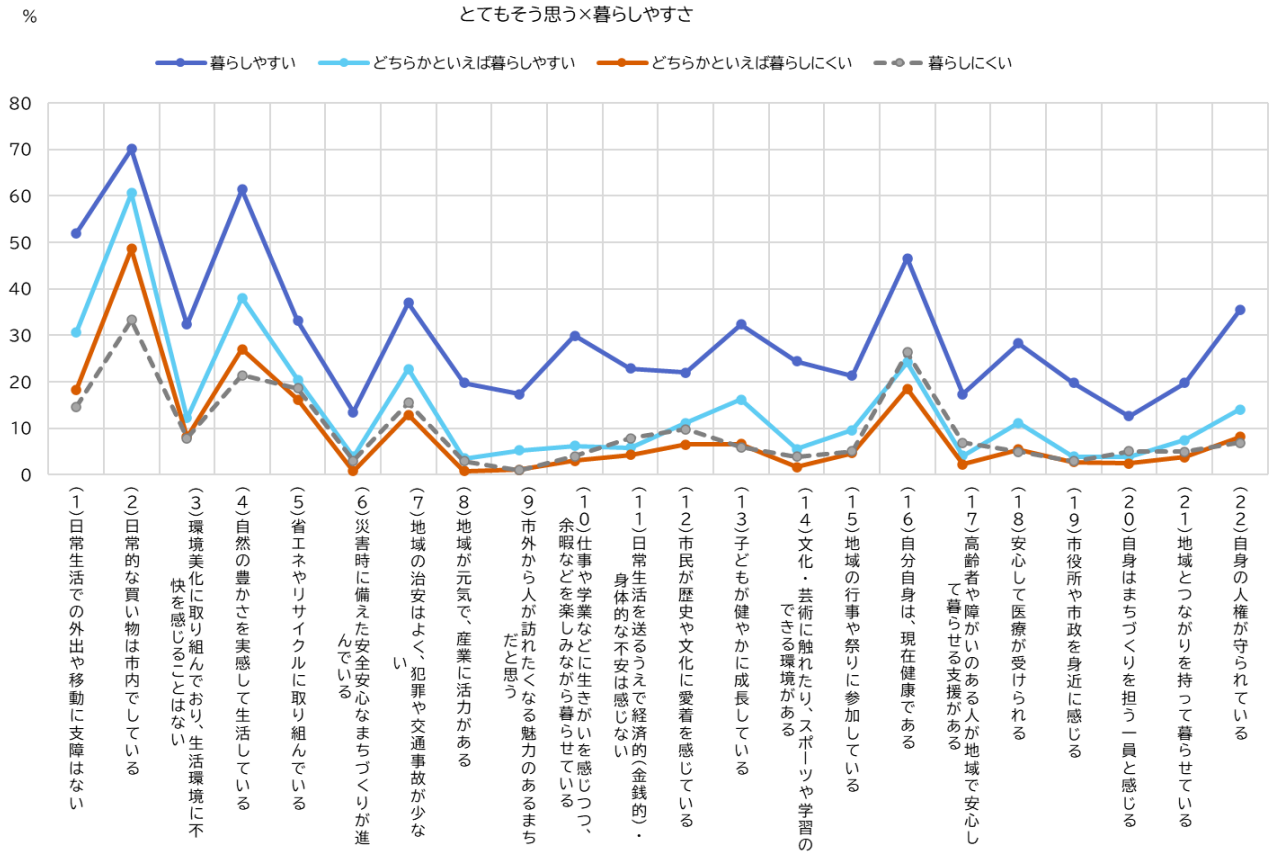
※幸福度高い層の割合－幸福度低い層の割合

② 暮らしやすさの評価×日々の取組（とてもそう思う）

- 暮らしやすさの評価（４段階）の回答を日々の取組（普段の暮らしで感じることや取り組んでいることの「とてもそう思う」の割合）（市民調査）でみると、同じような傾向となっています。その中でも、全項目で暮らしやすい割合が、ほかの割合を上回っています。
- 暮らしやすい割合が高い項目の上位は、「（2）日常的な買い物は市内でしている」、「（4）自然の豊かさを実感して生活している」、「（1）日常生活での外出や移動に支障はない」、「（16）自分自身は、現在健康である」、「（7）地域の治安はよく、犯罪や交通事故が少ない」です。この結果は、幸福度別の日々の取組（とてもそう思う）の上位項目と同じです。

▼考察(結果のポイント)

- 市民の暮らしやすさは、市内の買い物環境、自然の豊かさ、外出・移動のしやすさ、健康、安全、人権尊重、子どもの成長と関連していると考えられることから、こうした事項をさらに高める取組が求められます。
- これらの事項は幸福度の高さに関連する要素と多くの要素が共通しています。



- 暮らしやすい割合と暮らしにくい割合の差が大きい項目は下表のとおりです。

項目（とてもそう思う）	差（ポイント）※
（４）自然の豊かさを実感して生活している	40.0
（１）日常生活での外出や移動に支障はない	37.4
（２）日常的な買い物は市内でしている	36.8
（22）自身の人権が守られている	28.5
（13）子どもが健やかに成長している	26.4

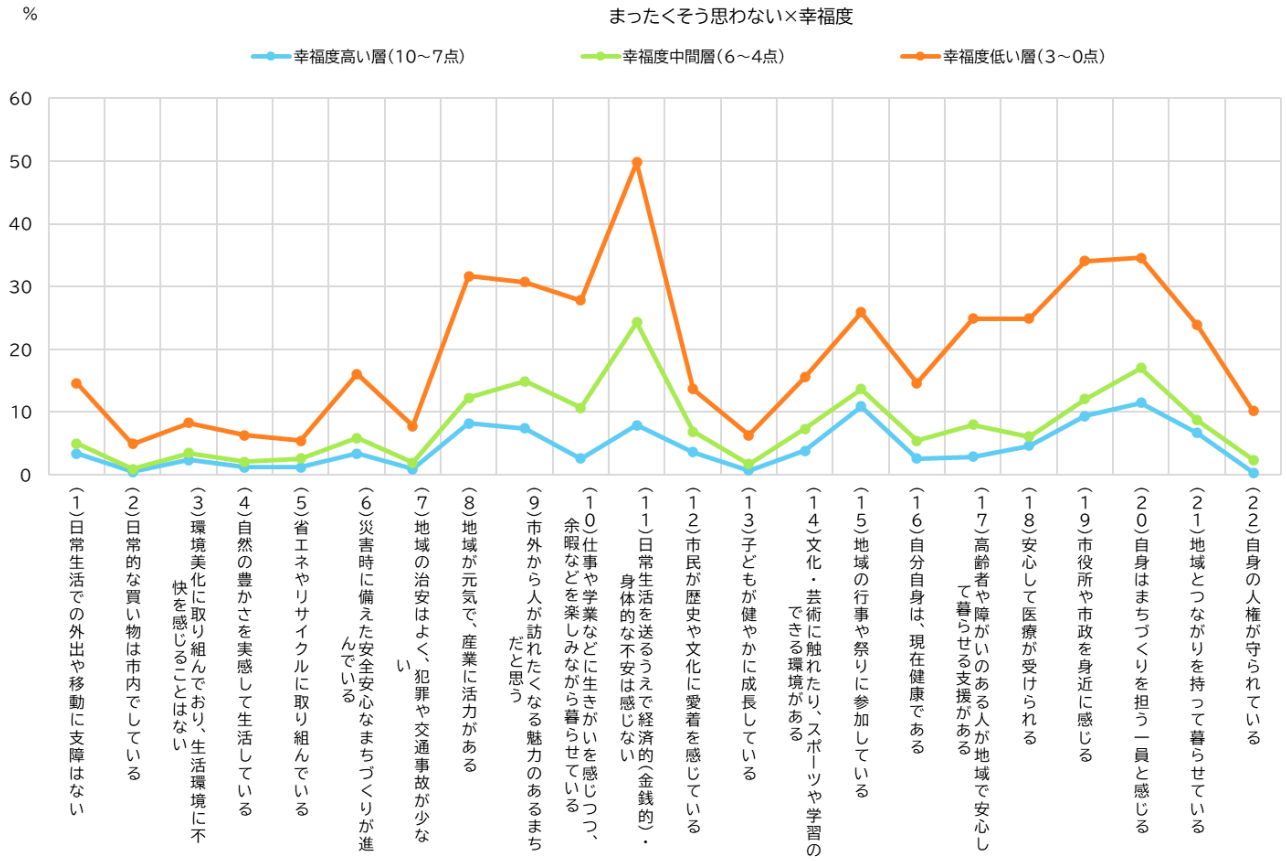
※暮らしやすい割合ー暮らしにくい割合

③ 幸福度×日々の取組（まったくそう思わない）

- 幸福度別（３段階）の回答を日々の取組（普段の暮らしで感じることや取り組んでいることの「まったくそう思わない」の割合）（市民調査）でみると、全項目で幸福度低い層（３～０点）が幸福度高い層（10～７点）と幸福度中間層（６～４点）を上回っています。
- 幸福度低い層（３～０点）が高い項目の上位は、「（11）日常生活を送るうえで経済的（金銭的）・身体的な不安は感じない」が最も高く、次いで「（20）自身はまちづくりを担う一員と感じる」、「（19）市役所や市政を身近に感じる」、「（8）地域が元気で、産業に活力がある」、「（9）市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う」です。

▼考察(結果のポイント)

- 市民の幸福度の低さは、経済的（金銭的）・身体的な不安、自己有用感、市民協働、地域経済、まちの魅力、生きがいと関連していると考えられることから、こうした事項を改善・解消する取組が求められます。



- 幸福度高い層（10～7 点）と幸福度低い層（3～0 点）の差が大きい項目は下表のとおりです。

項目（まったくそう思わない）	差（ポイント）※
（11）日常生活を送るうえで経済的（金銭的）・身体的な不安は感じない	-41.9
（10）仕事や学業などに生きがいを感じつつ、余暇などを楽しみながら暮らせている	-25.2
（19）市役所や市政を身近に感じる	-24.7
（8）地域が元気で、産業に活力がある	-23.5
（9）市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う	-23.3

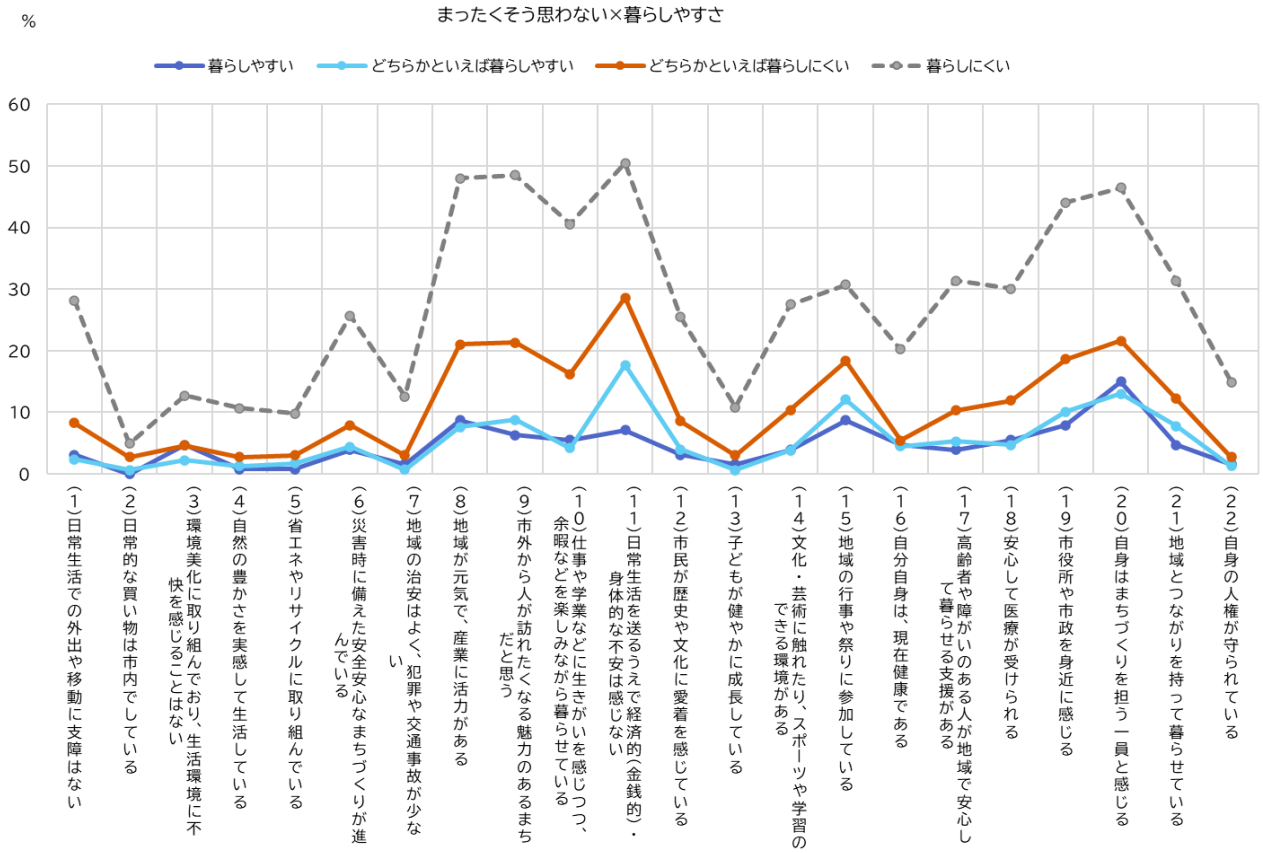
※幸福度高い層の割合－幸福度低い層の割合

④ 暮らしやすさの評価×日々の取組（まったくそう思わない）

- 暮らしやすさの評価別（４段階）の回答を日々の取組（普段の暮らしで感じることや取り組んでいることの「まったくそう思わない」の割合）（市民調査）でみると、同じような傾向となっています。その中でも、全項目で暮らしにくい割合が、ほかの割合を上回っています。
- 暮らしにくい割合が高い項目の上位は、「（11）日常生活を送るうえで経済的（金銭的）・身体的な不安は感じない」、「（9）市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う」、「（8）地域が元気で、産業に活力がある」、「（19）市役所や市政を身近に感じる」、「（20）自身はまちづくりを担う一員と感じる」です。この結果は、幸福度別の日々の取組（まったくそう思わない）の上位項目と同じです（順番は違う）。

▼考察(結果のポイント)

- 市民の暮らしにくさは、経済的（金銭的）・身体的な不安、まちの魅力、地域経済、自己有用感、市民協働、生きがいと関連していると考えられることから、こうした事項を改善・解消する取組が求められます。
- これらの事項は幸福度の低さに関連する要素と多くの要素が共通しています。



- 暮らしやすい割合と暮らしにくい割合の差が大きい項目は下表のとおりです。

項目（まったくそう思わない）	差（ポイント）※
（11）日常生活を送るうえで経済的（金銭的）・身体的な不安は感じない	-43.4
（9）市外から人が訪れたくなる魅力のあるまちだと思う	-42.2
（8）地域が元気で、産業に活力がある	-39.3
（19）市役所や市政を身近に感じる	-36.2
（10）仕事や学業などに生きがいを感じつつ、余暇などを楽しみながら暮らせている	-35.1

※暮らしやすい割合ー暮らしにくい割合